

第 4 章

事前調査結果

第4章 事前調査結果

4-1 水象

調査範囲における河川及び源泉地の状況は第 4-1 図のとおりである。

調査範囲には七北田川水系の七北田川、南貞山運河及び梅田川、砂押川水系の砂押川、旧砂押川及び砂押貞山運河が流れており、また、源泉地（コロナ 6 号）がある。また、主な湖沼としては、大沼、赤沼がある。なお、地下水は工業や農業に利用されている。

なお、計画地に河川及び湖沼はない。

また、宮城県では「工業用水法」（昭和 31 年法律第 146 号）及び「宮城県公害防止条例」（昭和 46 年宮城県条例第 12 号）に基づき、規制地域を指定して揚水量の報告、水源転換による揚水削減の指導を行っており、地下水採取の規制地域等は第 4-2 図のとおりである。

計画地は「宮城県公害防止条例」に基づく地下水採取規制地域に含まれないが、「工業用水法」に基づく地下水採取規制の指定地域には含まれる。

(1) 水源地

調査範囲における水源地は七北田ダム等のダム水から取水しているが、調査範囲には水源地はない。

また、調査範囲には第 4-3 図のとおり、砂押川に農業用の多賀城堰及び揚水機があるが、計画地に水源地はない。

(2) 湧水・温泉

調査範囲における温泉は第 4-1 図のとおり、コロナ 6 号があるが、湧水は存在しない。計画地に湧水・温泉はない。

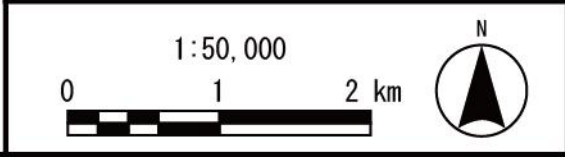
第4-1図 河川及び源泉地



凡 例

-  計画地
-  河川（二級河川区間）
-  源泉地

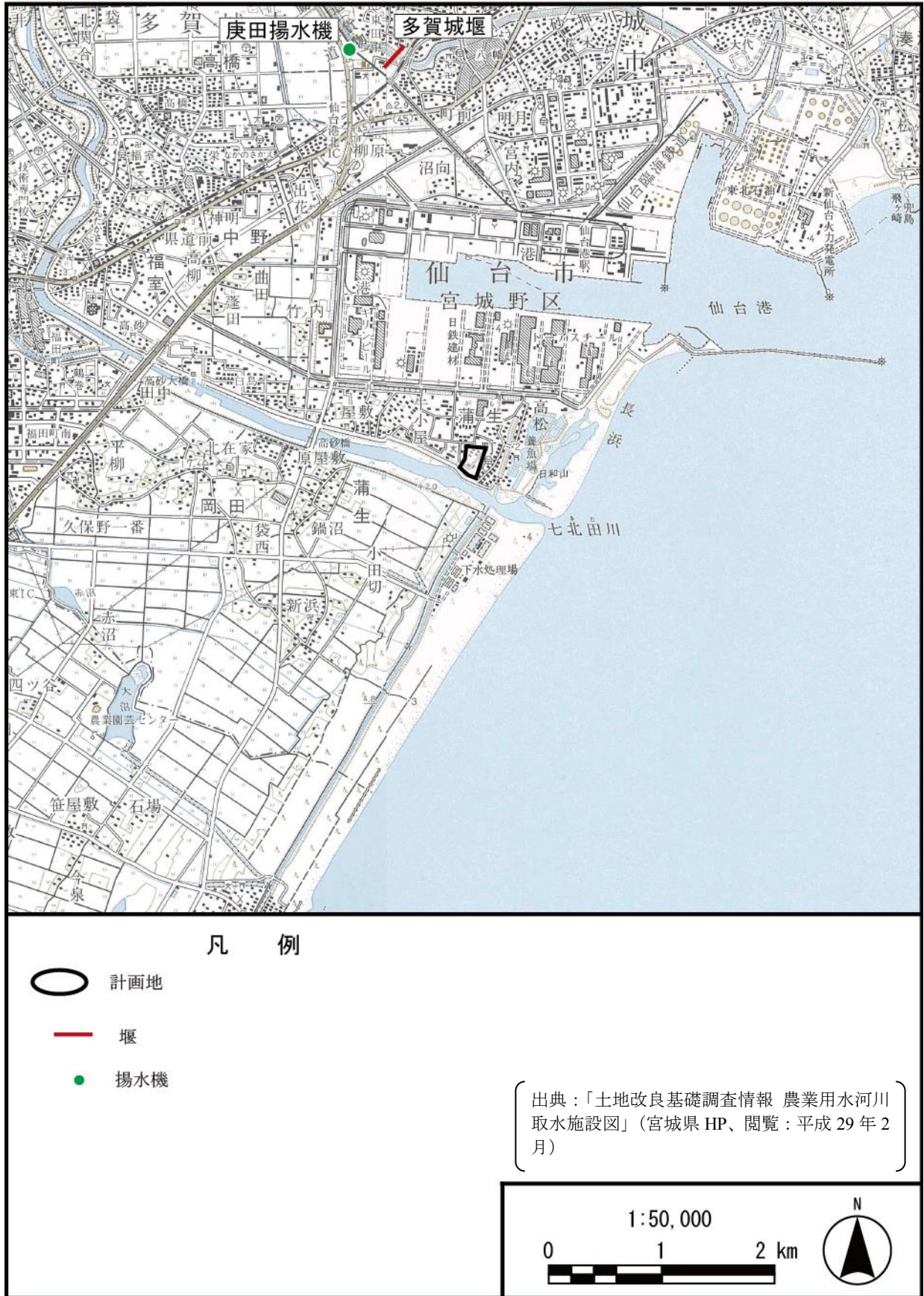
出典：「平成27年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業報告書」（仙台市、平成28年）
 「国土数値情報（河川データ）」（国土交通省国土政策局国土情報課 HP、閲覧：平成29年2月）より作成



第 4-2 図 地下水採取規制に係る地域



第 4-3 図 農業用水の施設



(3) 自然度の高い水辺

「平成 28 年度 自然環境に関する基礎調査業務報告書」（仙台市、平成 29 年）では、環境省の植生自然度 9、10（自然植生）に該当する植生を「自然性の高い植生」として位置づけている。調査範囲における植生自然度の高い水辺は第 4-4 図に示すとおり、七北田川沿い、大沼などの沼の周辺などに分布している。

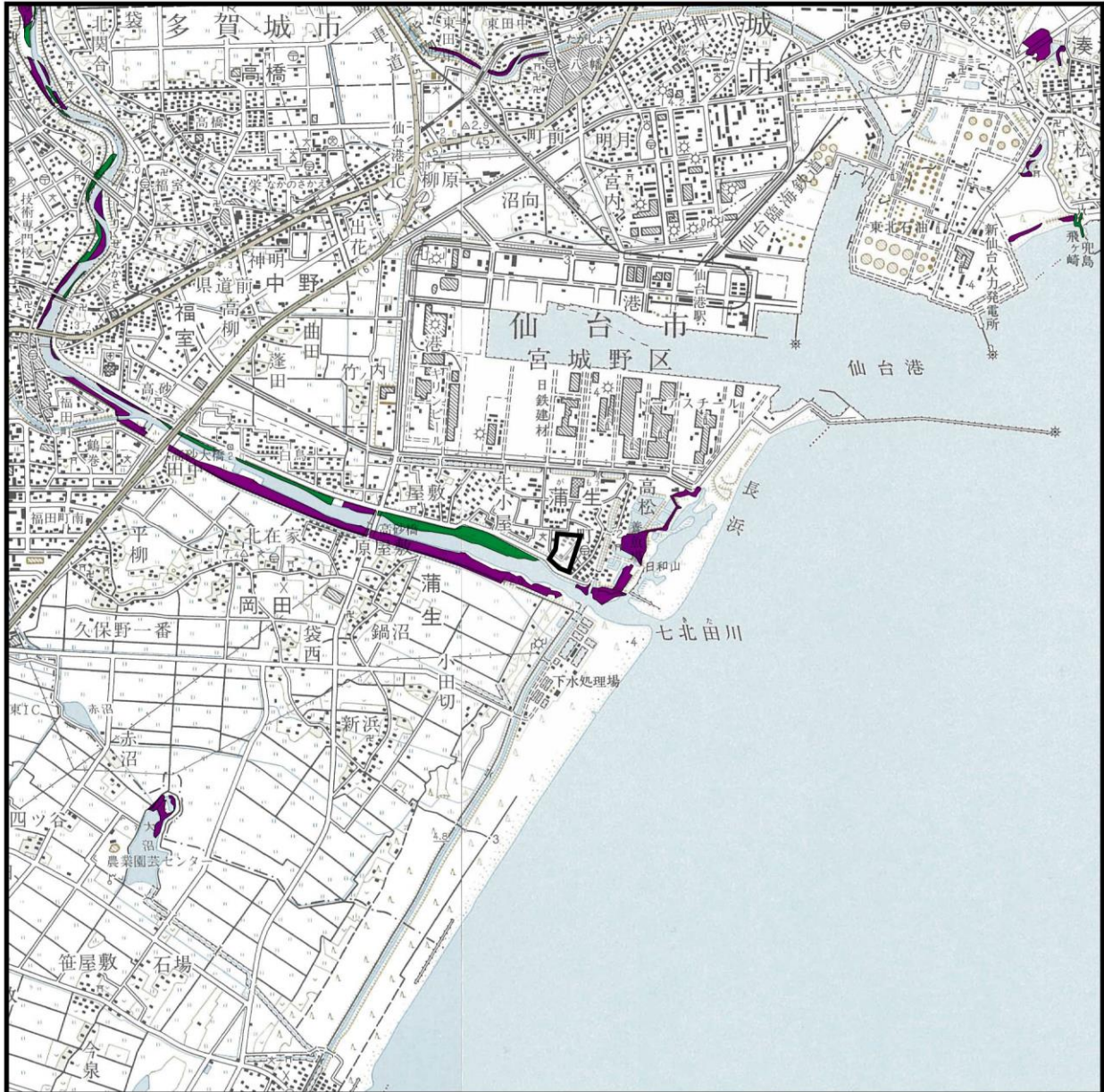
なお、植生自然度の区分基準は第 4-1 表のとおりである。

第 4-1 表 植生自然度の区分基準

植生自然度	区 分 基 準
10	高山ハイデ、風衝草原、自然草原等、自然植生のうち単層の植物社会を形成する地区
9	エゾマツトドマツ群集、ブナ群集等、自然植生のうち多層の植物社会を形成する地区
8	ブナ・ミズナラ再生林、シイ・カシ萌芽林等、代償植生であっても、特に自然植生に近い地区
7	クリーミズナラ群落、クヌギーコナラ群落等、一般には二次林と呼ばれる代償植生地区
6	常緑針葉樹、落葉針葉樹、常緑広葉樹等の植林地
5	ササ群落、ススキ群落等の背丈の高い草原
4	シバ群落等の背丈の低い草原
3	果樹園、桑畑、茶畑、苗圃等の樹園地
2	畑地、水田等の耕作地、緑の多い住宅地
1	市街地、造成地等の植生のほとんど存在しない地区

出典：「平成 21 年度 自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 22 年）
「自然環境保全基礎調査」（環境省HP、閲覧：平成 29 年 3 月）

第 4-4 図 植生自然度の高い水辺



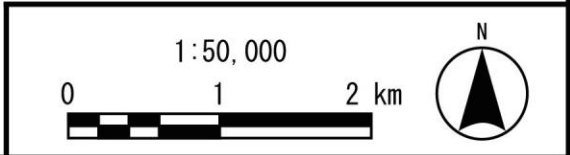
凡 例

○ 計画地

■ 植生自然度:10
 ヨシクラス
 ミゾソバ-ヨシ群落
 ヒルムシロクラス
 塩沼地植生
 砂丘植生

■ 植生自然度:9
 ヤナギ低木群落 (IV)
 マサキトベラ群集

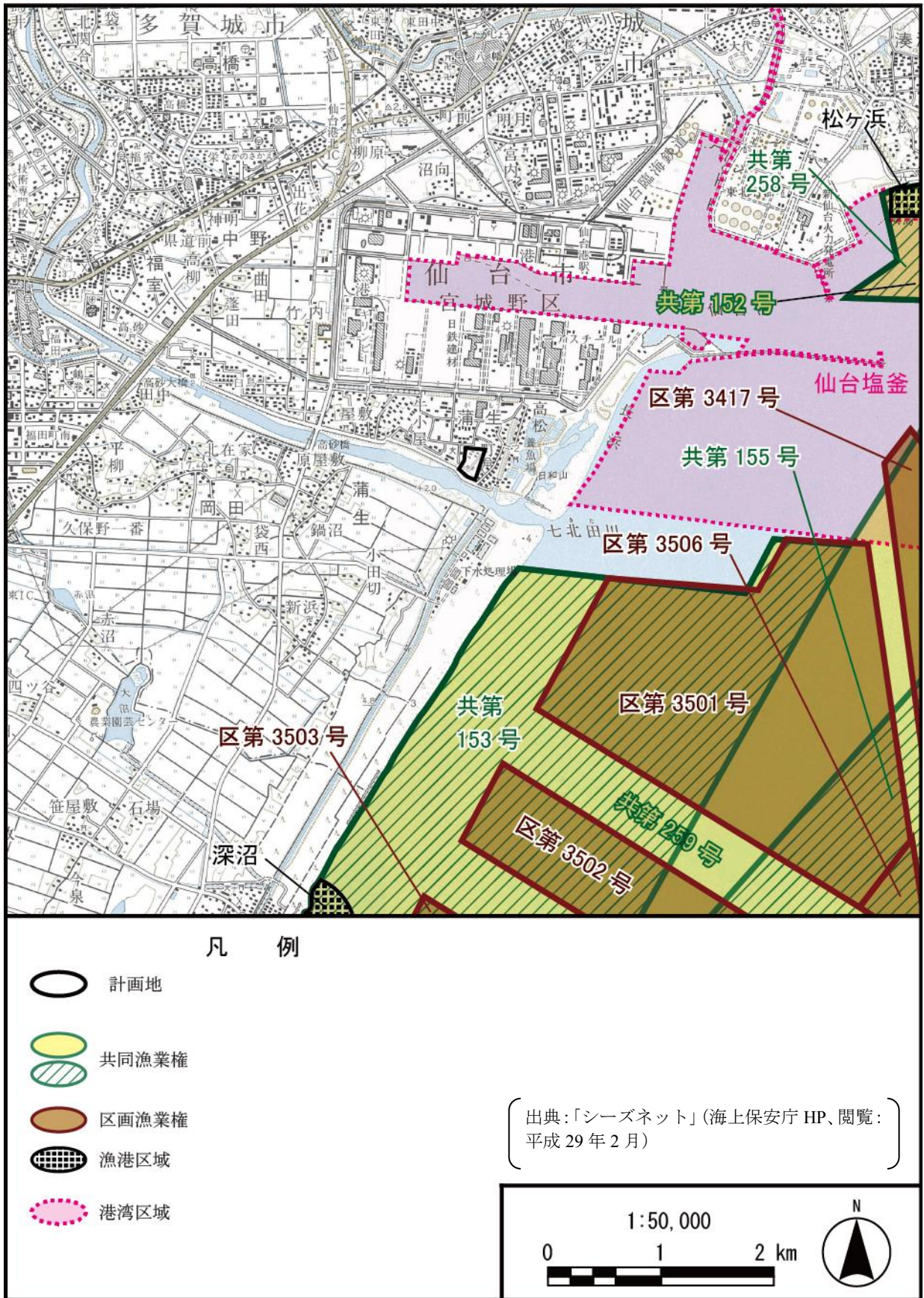
出典:「平成 27 年度仙台市現存植生図」(仙台市HP、閲覧:平成 29 年 3 月)
 「生物多様性センター 植生調査(植生自然度調査)」(環境省HP、閲覧:平成 29 年 3 月)



(4) **その他事業の立地上配慮を有する水象**

調査範囲の海域の漁業権及び港湾区域は第 4-5 図のとおり設定されている。なお、「宮城県内水面漁業調整規則」（平成 11 年宮城県規則第 112 号）によると、内水面における漁業権の設定はない。

第4-5図 海域の利用状況



4-2 地形・地質

(1) 地形

調査範囲の地形分類は第 4-6 図のとおり、計画地内は北側が後背湿地及び谷底平野、南側が浜堤である。また、第 4-7 図の仙台市宅地造成履歴等情報マップ（仙台市、平成 25 年）によると、計画地は 1970 年代に造成された土地である。

(2) 地質

調査範囲の表層地質は、第 4-8 図のとおり、計画地は礫・砂・泥及び礫・砂が混在している。調査範囲の表層土壌は、第 4-9 図のとおりである。計画地の北東境界付近はやや中島統に接しているが、大部分は地域の分類がされていない。

(3) 注目すべき地形・地質

調査範囲における注目すべき地形・地質は、第 4-10 図のとおりである。「日本の典型地形」（電子国土 Web、閲覧：平成 29 年 2 月）によると、調査範囲には海的作用による地形として「蒲生干潟」が、計画地の東から北東にかけて広く分布している。この蒲生干潟は、潮間帯に形成される砂や泥からなる広く平坦な部分である。また、「平成 28 年度 仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）によると「井上浦・名取川河口・七北田川河口など」があり、潟湖・河口干潟・砂浜海岸の典型例である。

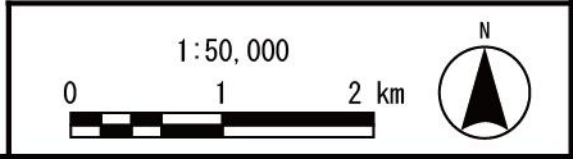
第 4-6 図(1) 地形分類図



凡 例

○ 計画地

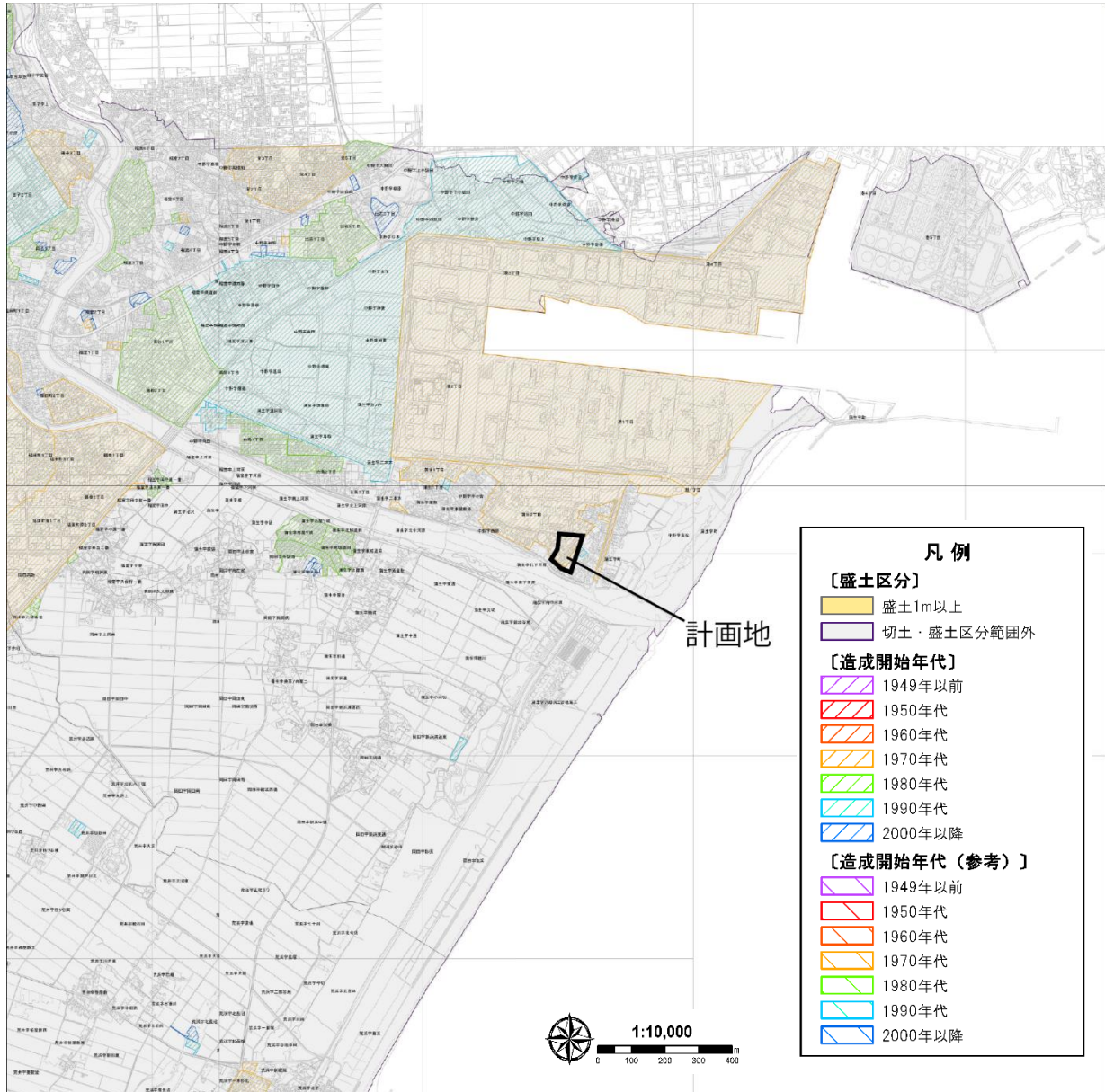
出典：「地形分類図 仙台（昭和 41 年調査）」
（経済企画庁、昭和 42 年）
「地形分類図 塩釜（昭和 57 年調査）」（宮城
県、昭和 59 年）



第 4-6 図(2) 地形分類図



第 4-7 図 仙台市宅地造成履歴等情報マップ



出典：「仙台市ホームページ 仙台市宅地造成履歴等情報マップ」（仙台市、平成 29 年）より作成した。

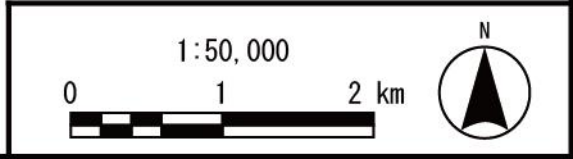
第 4-8 図(1) 表層地質図



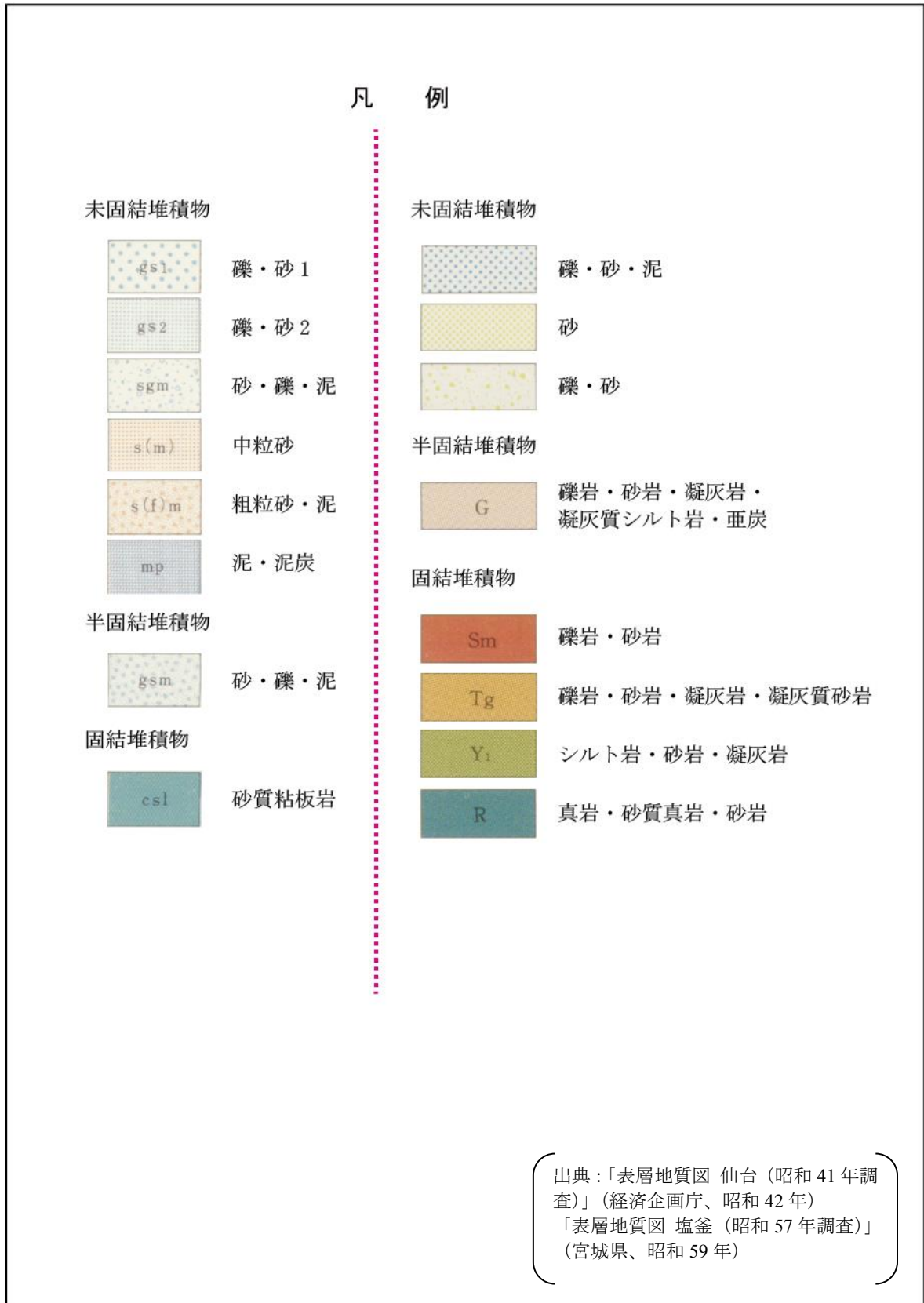
凡 例

○ 計画地

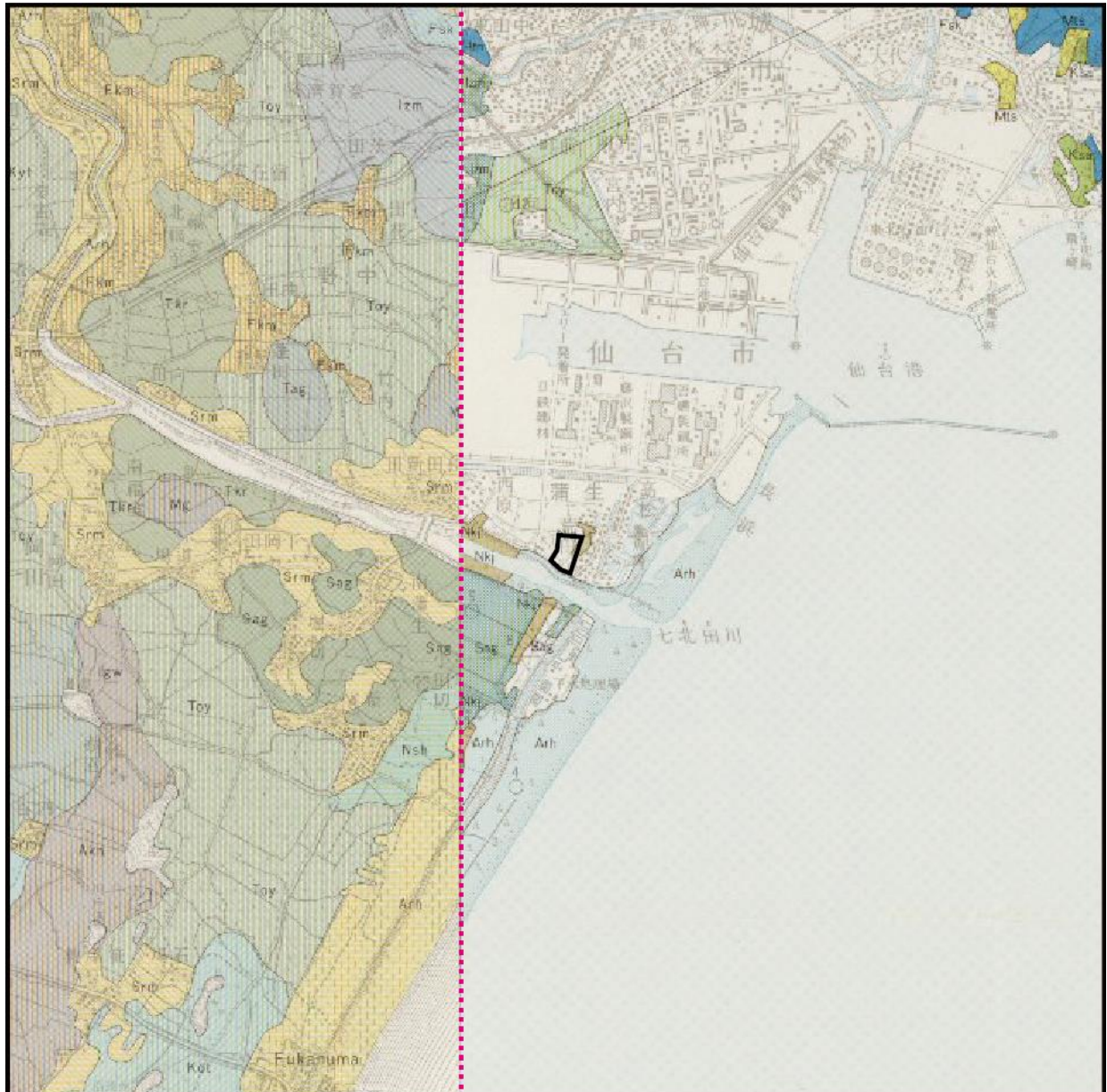
出典：「表層地質図 仙台（昭和 41 年調査）」（経済企画庁、昭和 42 年）
「表層地質図 塩釜（昭和 57 年調査）」（宮城県、昭和 59 年）



第 4-8 図(2) 表層地質図



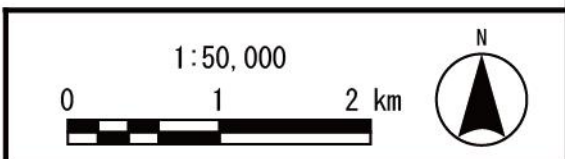
第 4-9 図(1) 土壤図



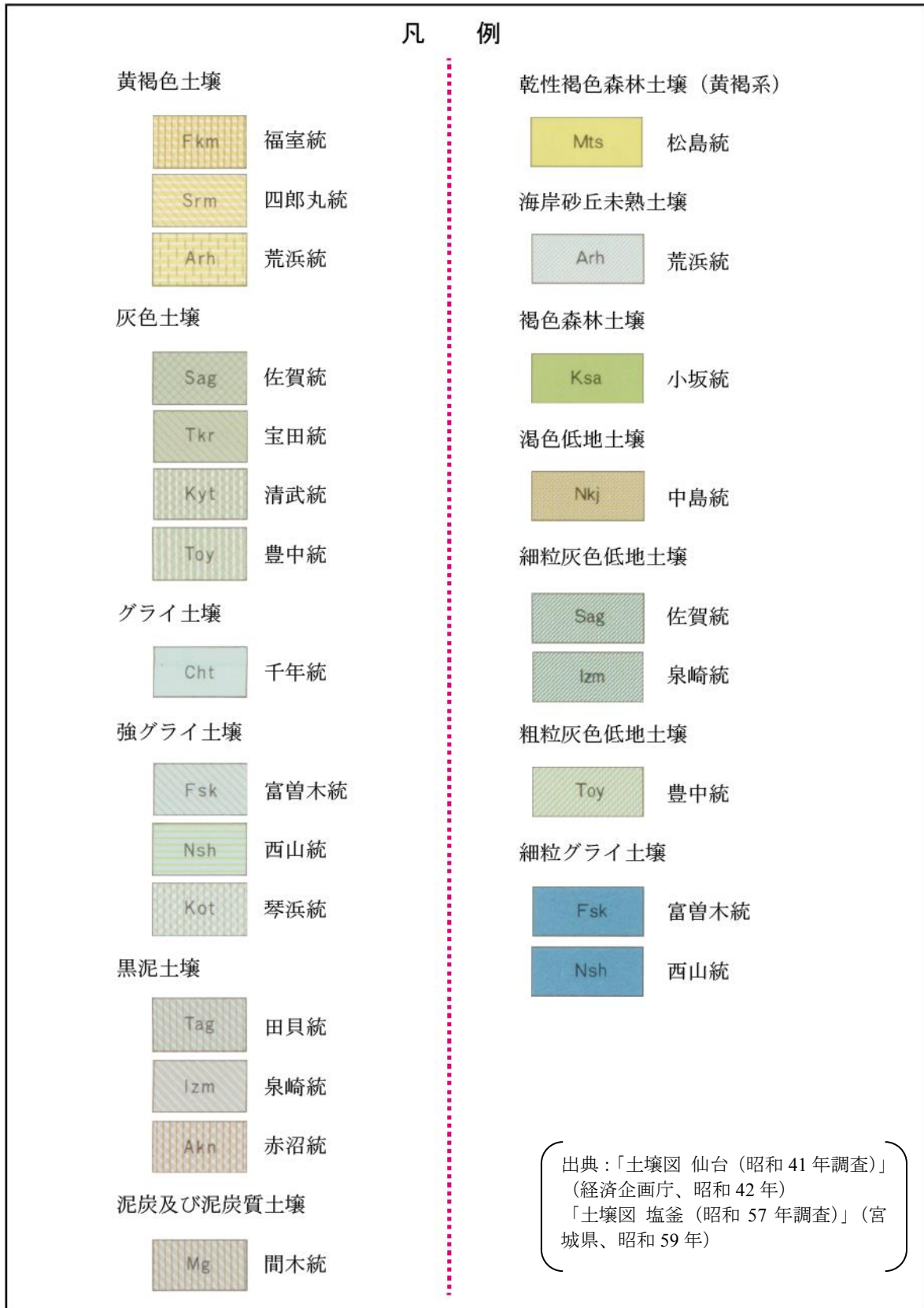
凡 例

○ 計画地

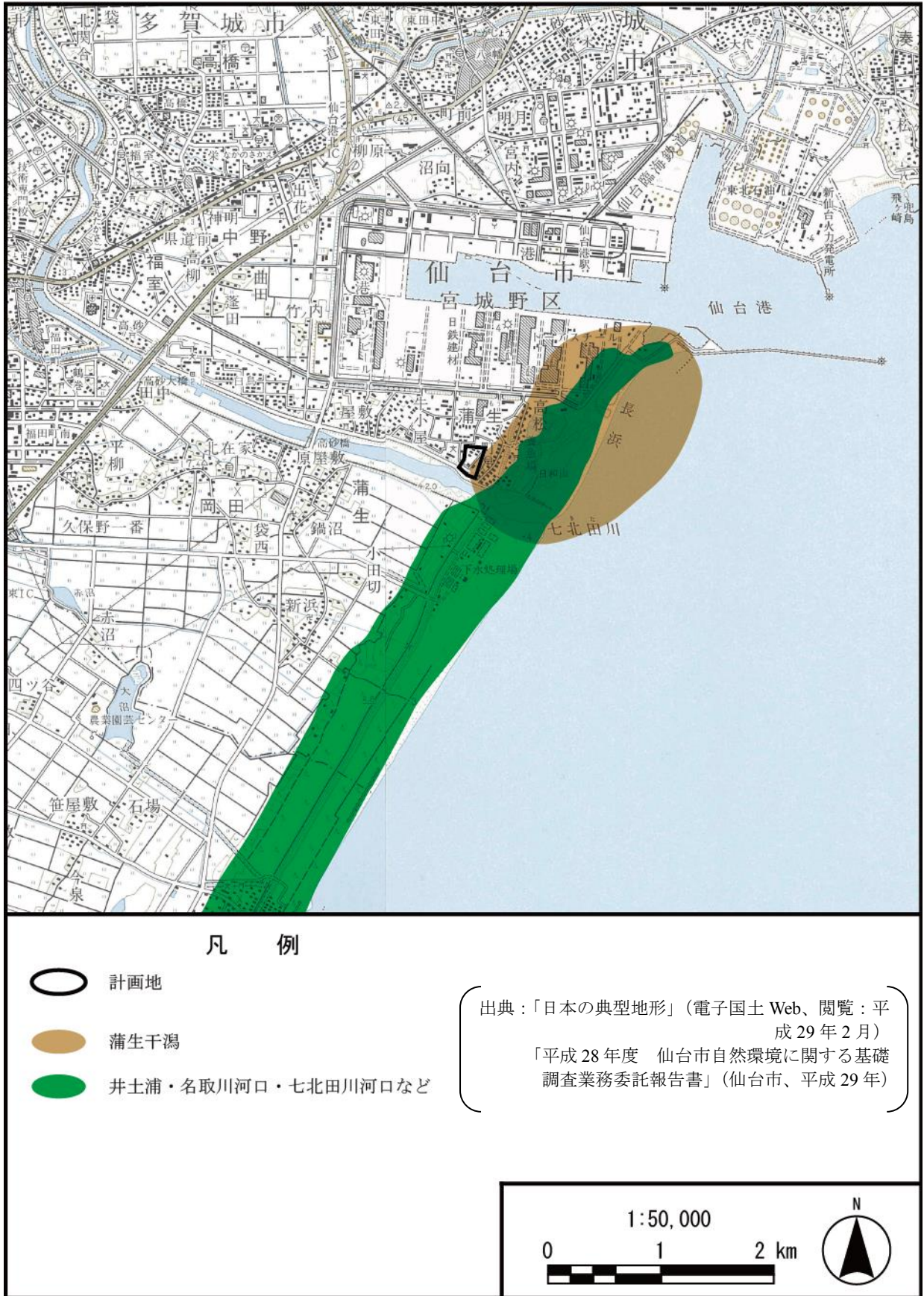
出典：「土壤図 仙台（昭和 41 年調査）」（経済企画庁、昭和 42 年）
「土壤図 塩釜（昭和 57 年調査）」（宮城県、昭和 59 年）



第 4-9 図 (2) 土壤図



第 4-10 図 注目すべき地形及び地質の位置



(4) 大規模な造成を要する傾斜地等

調査範囲における地形の状況は第 4-6 図とおりであり、計画地及びその周辺地域には「急傾斜地」は分布しない。調査範囲における災害の危険箇所の概要は第 4-2 表及び第 4-11 図 (1)のとおりであり、計画地及びその周辺地域において指定はないが、多賀城市や七ヶ浜町の一部には急傾斜地崩壊危険区域(法)及び急傾斜地崩壊危険箇所(県)が分布している。また、調査範囲における軟弱層は第 4-11 図 (2)のとおりであり、計画地に軟弱層は分布してしない。

「仙台市災害危険区域条例」(昭和 49 年仙台市条例第 49 号)による調査範囲の災害危険区域は第 4-12 図のとおりであり、計画地及びその周辺は第 5 号区域に指定されている。なお、第 5 号区域は、津波による危険の特に著しい区域で市長が指定するもので、平成 23 年に指定され、この区域では住宅の用に供する建築物の新築や増改築が禁止されている。東日本大震災の際に起きた津波到達ラインは第 4-13 図のとおりである。

第 4-2 表 防災に関する法令に関する指定地等

種別	区域名	市町村名
急傾斜地崩壊危険区域(法)	舂形	七ヶ浜町
急傾斜地崩壊危険箇所(県)	舂形	七ヶ浜町湊浜字舂形
	東田中	多賀城市東田中字一丁目
	熊野	七ヶ浜町湊浜字熊野
	後田	七ヶ浜町松ヶ浜字後田

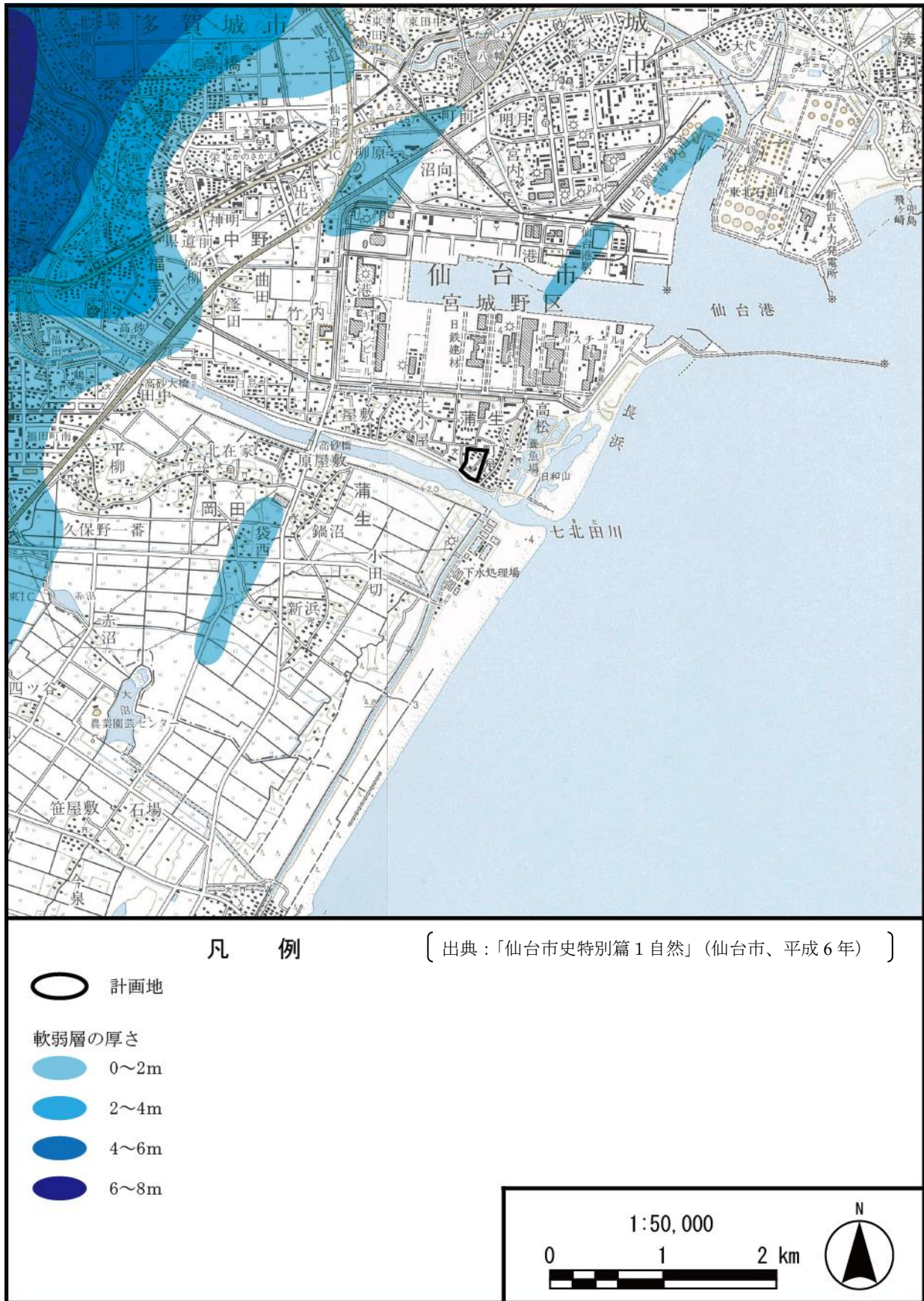
出典：1. 「宮城県砂防設備現況図」(宮城県、平成 20 年 3 月)

2. 「土砂災害警戒区域等指定箇所」(宮城県、平成 29 年 3 月)

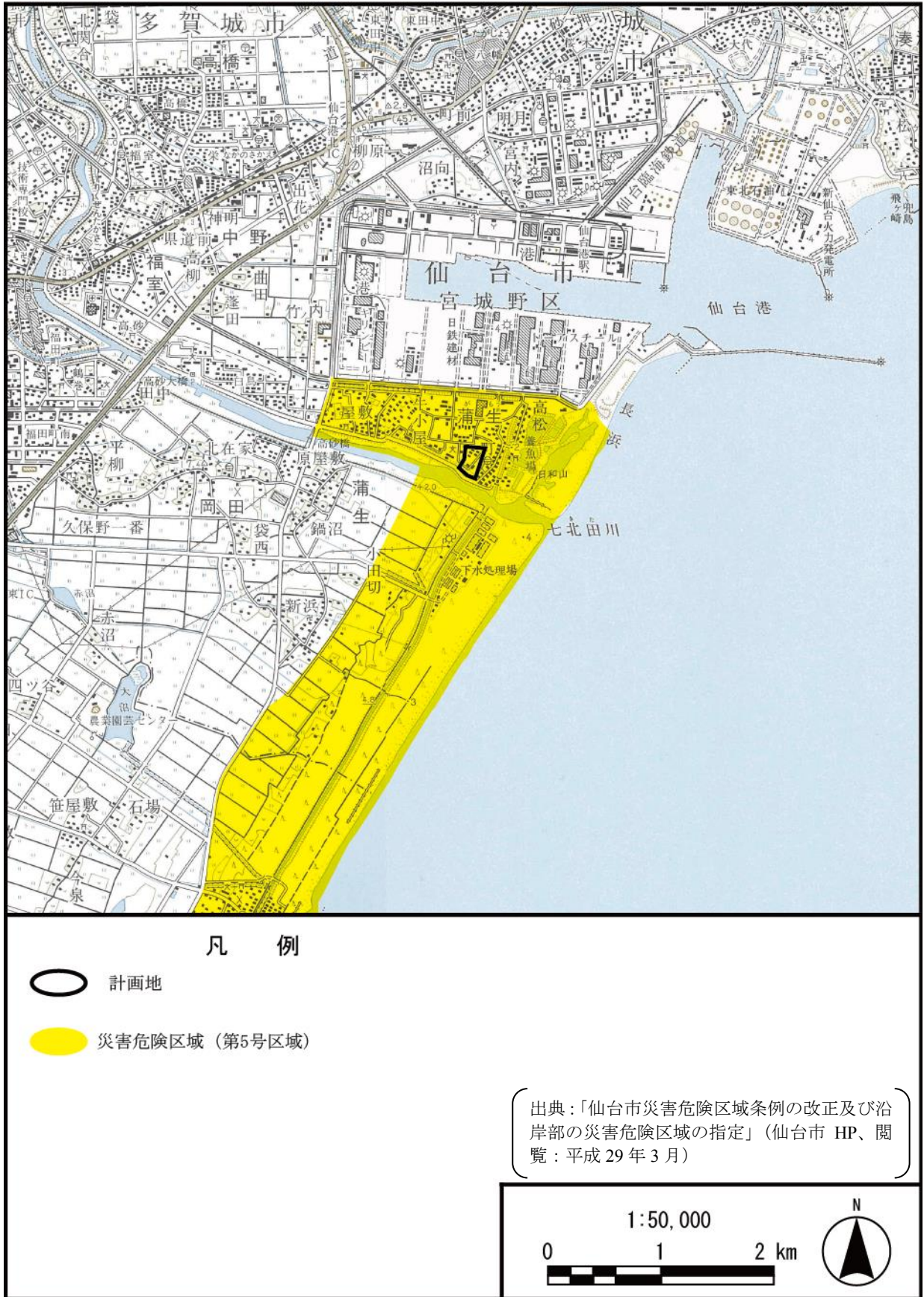
第 4-11 図(1) 防災に関する法令に関する指定地等（災害の危険箇所）



第4-11 図(2) 防災に関する法令に関する指定地等（軟弱層）



第 4-12 図 災害危険区域



第 4-13 図 東日本大震災の際に起きた津波到達ライン



(5) その他

「土壤汚染対策法」(平成 14 年法律第 53 号)に基づく区域の指定等については、「土壤汚染対策法に基づく要措置区域・形質変更時要届出区域」(環境省、平成 29 年)によると、調査範囲内に形質変更時要届出区域が 1 箇所ある。

仙台市若林区荒浜の一部が平成 25 年に指定されており、特定有害物質(鉛及びその化合物・ふっ素及びその化合物・ほう素及びその化合物)の溶出、含有がみられた。

また、調査範囲において過去 5 年間に 7 地点で土壤中のダイオキシン類調査が行われている。ダウ域親類の調査結果は第 4-3 表、調査地点の位置は第 4-14 図のとおりであり、全ての地点で環境基準に適合している。

第 4-3 表 土壤中のダイオキシン類調査結果(平成 24 年度～平成 28 年度)

No	調査地点名称	区分	測定結果 (pg-TEQ/g)					環境基 (pg-TEQ/g)
			平成 24 年 11 月 26 日	平成 25 年 8 月 30 日	平成 26 年 10 月 15 日	平成 27 年 8 月 20 日	平成 28 年 9 月 8 日	
1	耳取 2 号公園	発生源 周 辺	0.0087	0.088	—	—	—	1,000
2	宮城県震災廃棄物二次仮置場内		6.1	4.8	—	—	—	
3	西原西公園		—	—	2.0	—	—	
4	蒲生公園		—	—	0.093	—	—	
5	岡田ポンプ場		31.0	—	23.0	—	—	
6	蒲生搬入場跡地		3.9	2.6	5.9	—	—	
7	荒浜道路脇		5.4	5.8	—	—	—	

注)「蒲生搬入場跡地」は、平成 26 年度より、「蒲生搬入場内」から名称変更された。

出典:「公害関係資料集」(仙台市、平成 24 年～平成 27 年度)より作成した。

(6) その他事業の立地上配慮を有する地形・地質

事業の立地上配慮を有する地形・地質は、(3) 注目すべき地形・地質、(4) 大規模な造成を要する傾斜地等、(5)その他に記載したとおりであり、その他配慮を要する地形・地質はない。

第 4-14 図 土壌中のダイオキシン類調査結果



4-3 植物

(1) 注目すべき種の状況

調査範囲内における注目すべき植物種の状況は、以下に示す文献から整理した。具体的には、これら文献に掲載されている種のうち、第 4-4 表に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。文献①及び文献②については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「市街地地域」とされている減少種（第 4-5 表参照）または、種の分布地として調査範囲内の地域（蒲生、宮城野区港、岡田、荒井、荒浜等）が示されている学術上重要種及び環境指標種等を抽出した。文献③については、蒲生地区で確認された種を対象とし、文献④については、調査範囲内の地域（蒲生、仙台港、荒井、荒浜等）で確認された種を対象として、それぞれ注目すべき種を抽出した。

整理した結果は、第 4-6 表(1)～(4)に示すとおりであり、調査範囲内における注目すべき種数は 139 種であった。

- ①「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ②「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）
- ④「宮城県植物目録 2000」（宮城県植物の会・宮城県植物誌編集委員会、平成 13 年）

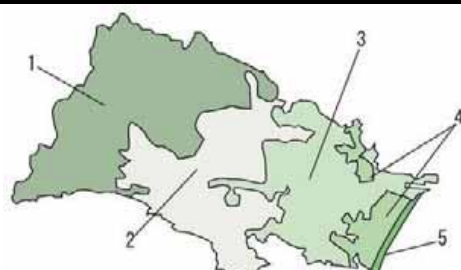
第4-4表 注目すべき種の選定基準

判断基準	記号等	説明	
仙台市における保全上重要な種の区分	学術上重要種	1	仙台市においてもともと稀産あるいは希少である種。あるいは生息地・生育地がごく限られている種。
		2	仙台市周辺地域が分布の北限、南限となる種。
		3	仙台市が模式産地（タイプロカリティー）となっている種。
		4	1、2、3には該当しないが、各分類群において、注目に値すると考えられる種（継続的に観察・研究されている種など）
	減少種	EX	絶滅。過去に仙台市に生息したことが確認されており、飼育・栽培下を含め、仙台市では既に絶滅したと考えられる種。
		EW	野生絶滅。過去に仙台市に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下では存続しているが、野生ではすでに絶滅したと考えられる種。
		A	現在ほとんど見ることができない、あるいは近い将来ほとんど見ることができなくなるおそれがある種。
		B	減少が著しい、あるいは近い将来著しい減少のおそれがある種。
		C	減少している、あるいは近い将来減少のおそれがある種。
		+	普通に見られる、あるいは当面減少のおそれがない種。
		/	もともと生息・生育しない可能性が非常に大きい。
	・	判断に資する情報がない。	
	環境指標種	○	本市の各環境分類における環境を指標する種。（ビオトープやミティゲーションにおける計画・評価のための指標。）
レッドデータ等	国 RL 「環境省レッドリスト2017」（環境省、平成29年）掲載種	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR	絶滅危惧 IA 類
		EN	絶滅危惧 IB 類
		VU	絶滅危惧 II 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		LP	絶滅のおそれのある地域個体群
	県 RDB 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）掲載種	EX	絶滅
		EW	野生絶滅
		CR+EN	絶滅危惧類
		VU	絶滅危惧 II 類
		NT	準絶滅危惧
		DD	情報不足
		要	要注目種
	文化財保護法種の保存法	特天	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における特別天然記念物
		天記	『文化財保護法』（昭和25年法律第214号）における天然記念物
		国内	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国内希少野生動植物
		国際	『絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）』（平成4年法律第75号）における国際希少野生動植物

注：1. 仙台市における保全上重要な種の区分は、「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成29年）による。
 2. 記号等の記載は、第4-6表(1)～(3)及び第4-13表～第4-19表に示す注目すべき種の選定基準に該当する。

第4-5表 減少種の地域区分

番号	地域区分
1	山地地域
2	西部丘陵地・田園地域
3	市街地地域
4	東部田園地域
5	海浜地域（後背の樹林も含む）



注：調査範囲は、「3 市街地地域」に該当する。
 出典：「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成29年）
 「杜の都環境プラン 仙台市環境基本計画 2011-2020」（仙台市、平成23年）

第4-6表(1) 注目すべき植物

No.	科名	種名	文献				仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地	
			①	②	③	④	学術上重要種	減少種									環境指標種
								山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域					
1	トクサ	イヌスギナ	○					・	B	・	B	・				岡田中、中野	
2	イノモトソウ	オオバノイノモトソウ	○	○			1,2	・	B	C	C	・					
3	オシダ	リョウメンシダ	○					・	B	・	・	・	○			荒浜	
4		オシダ	○	○				・	B	・	・	・				蒲生	
5		イワシロイノデ	○	○					・	B	・	・	・				蒲生、荒浜
6		ジュウモンジシダ	○	○					・	B	・	・	・	○			蒲生
7	ヒメシダ	ヒメワラビ	○	○			2	・	B	B	B	・					
8	メシダ	クサソテツ	○					・	B	・	C	・				荒浜	
9	デンジソウ	デンジソウ	○											VU	EW		
10	サンショウウモ	サンショウウモ	○	○			1	EX	EX	EX	EX	EX		VU	NT		
11	マツ	モミ	○	○				・	C	・	・	・	○			荒浜	
12	クルミ	オニグルミ	○	○	○			・	B	B	B	・	○				
13	ヤナギ	ネコヤナギ	○	○			4	・	C	C	・	・	○				
14	カバノキ	ハンノキ	○	○			1,4	・	C	・	B	C	○			岡田、蒲生	
15		ウダイカンバ	○				4	C	C	・	・	・				荒浜	
16		イヌシデ	○	○			4	C	B	・	・	C	○			荒浜	
17	ブナ	アカガシ	○	○			2	・	C	C	C	C	○				
18		アオナラガシワ	○	○		○	1	・	C	・	・	・				蒲生	
19		ミズナラ	○			○		C	B	・	・	・				荒浜	
20		シラカシ	○	○			2	・	C	C	C	/	○			岡田	
21		ウラジロガシ	○	○			2	・	C	C	C	/					
22	ニレ	エノキ	○	○			4	・	B	B	B	・				岡田	
23		ケヤキ	○	○				C	C	B	B	・	○				
24	イラクサ	トキホコリ	○	○			1	・	B	B	・	・		VU	VU		
25	タデ	イヌタデ			○	○		・	・	・	・	・	○				
26		サデクサ		○			1	・	・	・	C	・			NT	荒浜	
27		ミゾソバ	○	○					・	C	B	C	・	○			蒲生
28	ザクロソウ	ザクロソウ				○	1	・	・	・	・	・					
29	ナデシコ	カワラナデシコ	○	○				・	C	・	・	C				荒浜	
30		ナガバツメクサ				○									DD		
31	アカザ	ハママツナ	○	○	○	○	2	・	・	・	・	B	○		NT	蒲生	
32	クスノキ	シロダモ	○	○	○		2	・	+	・	+	+	○			蒲生、荒浜	
33	キンポウゲ	ヒメキンポウゲ	○			○								VU	CR+EN		
34		コキツネノボタン	○	○			1	・	・	・	・	・		VU	VU	若林区荒井大沼	
35	スイレン	オニバス	○	○			1	EX	EX	EX	EX	EX		VU	EX	大沼	
36	ドクダミ	ハンゲショウ		○				・	・	・	・	B			VU	蒲生	
37	ツバキ	ヤブツバキ	○	○				・	B	B	B	B	○			蒲生	
38	ケシ	キケマン				○									VU		
39	アブラナ	ナズナ	○	○				・	B	B	B	・	○			岡田中、蒲生、天神沢	
40		ミズタガラシ		○					・	・	・	B	・			VU	岡田
41	ユキノシタ	タコノアシ		○				・	B	・	C	・			NT	蒲生～岡田	
42		ユキノシタ	○	○				・	B	B	・	・				荒浜	

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成28年度生物リスト」(国土交通省、平成28年)に準拠した。
 2. 表中の文献は以下のとおりである。
 ①「平成22年度自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成23年)
 ②「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成29年)
 ③「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」(環境省、平成28年)
 ④「宮城県植物目録2000」(宮城県植物の会・宮城県植物誌編集委員会、平成13年)
 3. 表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。
 4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。
 5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-6 表 (2) 注目すべき植物

No.	科名	種名	文献				学術上重要種	仙台市重要種区分					国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地	
			①	②	③	④		減少種									
								山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域					環境指標種
43	バラ	カスミザクラ			○		・	C	・	・	・	○					
44		ハマナス	○	○	○	○	4	・	・	・	・	B	○	NT		蒲生	
45		カジイチゴ	○	○		○	1,2	・	・	・	C	C					岡田、蒲生、荒浜
46	マメ	タヌキマメ	○	○				EX	EX	EX	EX	EX		CR+EN			
47		ツクシハギ				○		・	B	・	B	・	○				
48		イヌハギ	○			○	1	・	・	・	・	・		VU	NT		宮城野区港
49		センダイハギ	○	○		○	1	・	・	・	・	B		CR+EN			岡田、荒浜
50	トウダイグサ	ノウルシ		○		○		・	・	・	C	・		NT	要		岡田、蒲生、荒井、荒浜
51	ユズリハ	ユズリハ	○	○			1,2	・	C	・	C	C					荒浜
52	ミカン	ミヤマシキミ	○	○			1	・	C	・	・	C					荒浜
53	トチノキ	トチノキ	○	○				C	C	・	・	・					荒浜
54	モチノキ	イヌツゲ	○	○	○	○		・	C	・	・	C					蒲生、荒浜
55	ヒシ	ヒシ			○	○		・	B	・	B	・	○				
56	ミズキ	アオキ	○	○				・	C	C	C	C	○				
57	セリ	ハマボウフウ	○	○			1	・	・	・	・	C					蒲生
58	イチヤクソウ	ウメガサソウ	○			○		・	C			C	○				岡田新浜
59		ベニバナイチヤクソウ	○	○			1	・	・	・	・	・					荒浜
60	ツツジ	ヤマツツジ	○	○				・	C	C	・	C	○				
61		ナツハゼ	○	○	○			・	C	・	・	・					荒浜
62	ヤブコウジ	ヤブコウジ	○	○	○			・	・	・	・	・	○				荒浜海岸公園
63	モクセイ	イボタノキ			○			・	B	・	・	・	○				
64	マチン	ヒメナエ				○								VU	CR+EN		
65	リンドウ	イヌセンブリ	○	○		○	1	・	・	・	・	・		VU	VU		岡田、荒浜
66	ミツガシワ	ヒメシロアサザ	○	○		○	1	・	・	・	・	A	・	VU	VU		荒浜
67	ヒルガオ	ハマヒルガオ	○	○	○	○		・	・	・	・	B	○				中野、荒浜
68	シソ	ヒメハッカ	○	○		○	1	・	・	・	・	B	・	NT	CR+EN		荒浜
69		タツナミソウ				○									要		
70	ゴマノハグサ	オオアブノメ	○	○			1	・	・	・	・	B	・	VU	要		荒井
71		ウンラン	○	○	○	○		・	・	・	・	C					蒲生、荒浜
72		サギゴケ		○				・	C	・	C	・	○				岡田、荒浜
73		イヌノフグリ	○	○			1	・	・	B	・	・		VU	VU		
74		カワヂシャ	○	○			1	・	・	B	B	・		NT	NT		宮城野区蒲生、若林区荒井大沼
75	タヌキモ	ミミカキグサ		○		○		・	・	・	・	A	・	CR+EN			
76		フサタヌキモ	○	○		○	1	EX	EX	EX	EX	EX		EN	EX		大沼
77	オオバコ	オオバコ	○	○	○			・	・	・	・	・	○				蒲生、荒浜
78	オミナエシ	オミナエシ	○	○				・	B	・	B	・	○				岡田、荒浜

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(国土交通省、平成 28 年)に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成 23 年)
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成 29 年)
- ③ 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」(環境省、平成 28 年)
- ④ 「宮城県植物目録 2000」(宮城県植物の会・宮城県植物誌編集委員会、平成 13 年)

3. 表中の分布地は、文献①及び②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第4-6表(3) 注目すべき植物

No.	科名	種名	文献				学術上重要種	仙台市重要種区分					国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地
			①	②	③	④		減少種				環境指標種				
								山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域					
79	キク	キッコウハグマ	○		○			・	B	・	・	・	○			荒浜
80		フジバカマ		○				・	C	C	・	・		NT		荒井
81		ノニガナ		○				・	・	C	・	・			NT	
82		カワラニガナ		○				・	・	B	・	・		NT	VU	
83		アキノキリンソウ	○	○	○			・	C	・	・	・	○			荒浜
84		アオヤギバナ		○				・	・	B	・	・			VU	
85		エゾタンポポ	○	○				・	C	B	B	C	○			岡田
86		オナモミ				○		・	B	・	・	・		VU	VU	
87	オモダカ	オモダカ	○			○		・	C	・	B	・	○			東部田園地区の水田
88	トチカガミ	ミズオオバコ				○	1	・	B	・	B	・		VU	NT	
89		コウガイモ				○		・	・	・	A	・			CR+EN	
90	ホロムイソウ	オオシバナ	○	○		○	1	・	・	・	・	B	○	NT	CR+EN	蒲生
91	ヒルムシロ	イトモ	○	○		○	1	・	C	・	B	・		NT	要	蒲生、荒浜
92		エビモ	○					・	B	・	B	・	○			荒浜
93		センニンモ				○		・	C	・	B	・	○		VU	
94	イバラモ	サガミトリゲモ	○	○			1	・	・	・	・	・		VU	VU	若林区荒井
95	ユリ	ヤマラッキョウ		○				・	・	B	・	・			VU	
96		カタクリ	○	○				・	B	B	B	・				
97		ニッコウキスゲ	○	○				・	B	B	B	・				
98		ヒメヤブラン	○	○	○			・	C	・	・	+	○			荒浜
99		オオバジャノヒゲ				○		・	B	・	・	C				
100		ヒメイズイ				○		・	・	・	・	C			NT	
101	キンバイザサ	コキンバイザサ	○	○			1,2	EX	EX	EX	EX	EX			EX	
102	ミズアオイ	ミズアオイ				○		・	・	・	C	・	○	NT		
103		コナギ	○	○	○	○		・	・	・	C	・	○			荒井
104	アヤメ	ノハナショウブ	○	○			1	・	C	・	・	・	○			蒲生
105		ヒメシャガ	○	○				・	B	B	・	・	○	NT	NT	
106	イグサ	ヒメコウガイゼキショウ		○				・	・	・	・	B			VU	蒲生
107	イネ	ヤマアワ	○		○			・	B	・	・	B				港
108		ヒナザサ		○				・	B	B	・	・		NT	VU	
109		メヒシバ	○	○	○			・	・	・	・	・	○			蒲生、荒井
110		ハマニンニク	○	○	○	○	1,4	・	・	・	・	C	○			蒲生から名取川河口まで
111		カゼクサ	○	○	○			・	B	C	C	・	○			蒲生、荒浜
112		オオウシノケグサ	○				4	・	B	・	B	C	○			藤塚貞山堀
113		ウキガヤ		○				・	・	C	C	・			NT	
114		ケカモノハシ	○	○	○			・	・	・	・	B	○			蒲生、中野
115		カモノハシ	○	○			1	・	・	・	・	B				岡田、荒浜
116		オギ	○	○	○			・	C	C	C	C	○			岡田
117		アイアシ	○	○	○	○	1	・	・	・	・	C	○		NT	七北田川、蒲生
118		ヨシ	○	○	○			・	C	C	C	C	○			蒲生海岸、荒浜
119		ツルヨシ	○	○				・	C	C	C	・	○			

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成28年度生物リスト」(国土交通省、平成28年)に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ①「平成22年度自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成23年)
- ②「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成29年)
- ③「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」(環境省、平成28年)
- ④「宮城県植物目録2000」(宮城県植物の会・宮城県植物誌編集委員会、平成13年)

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-6 表 (4) 注目すべき植物

No.	科名	種名	文献				学術上重要種	仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地			
			①	②	③	④		減少種					環境指標種							
								山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域								
120	イネ	ネズミノオ	○	○				・	・	・	C	・	○				岡田、蒲生干潟、荒浜、貞山堀			
121		マコモ			○			・	B	・	B	・	○							
122		シバ	○	○	○			・	B	B	B	・	○							
123	サトイモ	ヒメザゼンソウ	○					・	B	・	C	・								
124	ミクリ	ミクリ	○	○	○	○	1	・	B	・	B	・	○	NT	NT		荒井			
125	ガマ	ヒメガマ	○	○	○			・	C	C	C	・								
126		ガマ	○	○				・	C	C	C	・	○				荒井			
127	カヤツリグサ	コウボウムギ	○	○	○	○		・	・	・	・	・	B	○			蒲生、荒浜			
128		マメスゲ	○	○		○	1	・	・	・	・	・			CR+EN		岡田			
129		センダイスゲ	○	○			4	・	・	・	・	・					荒浜			
130		スジヌマハリイ	○	○		○	1	・	・	・	・	・		VU	VU		荒浜			
131		ナガボテンツキ				○	2	・	・	・	・	・			VU					
132		サンカクイ	○	○	○			・	B	・	B	・					荒井			
133	ラン	セッコク	○	○			1	EX	EX	EX	EX	EX			CR+EN					
134		ハマカキラン	○	○		○	1	・	・	・	・	B		VU	NT		蒲生、荒浜			
135		クモキリソウ	○	○			1,4	・	B	・	・	B					岡田			
136		ヤマサギソウ				○		B	・	・	・	・			VU					
137		ヤマトキソウ		○				・	A	A	・	・			CR+EN					
138		マツラン	○	○		○	1	・	B	・	・	B		VU	CR+EN		蒲生			
139		ネジバナ			○			・	B	・	B	・	○							
66 科			139 種				102 種	103 種	34 種	46 種	53 種	133 種	133 種	132 種	133 種	133 種	57 種	31 種	54 種	0 種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」(国土交通省、平成 28 年)に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成 23 年)
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成 29 年)
- ③ 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」(環境省、平成 28 年)
- ④ 「宮城県植物目録 2000」(宮城県植物の会・宮城県植物誌編集委員会、平成 13 年)

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

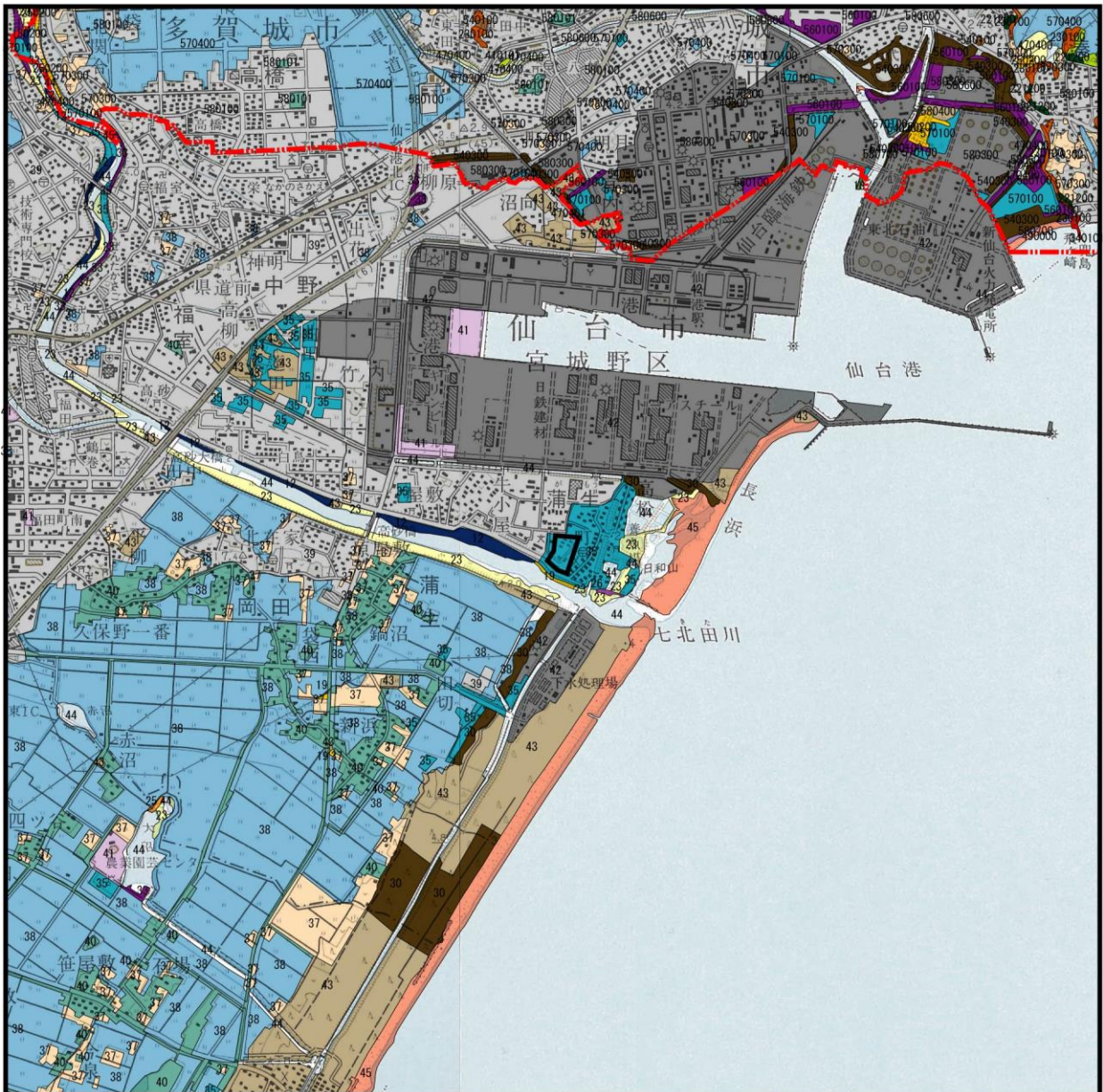
(2) 植生及び注目すべき植物群落

調査範囲の現存植生は第 4-15 図に示すとおりであり、なお、計画地及びその周辺は「路傍・空地雑草群落」となっている。

また、注目すべき植物群落については、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）では、第 4-7 表に示す選定基準により、保全上重要な植物の生育地を選定している。

調査範囲においては、第 4-8 表及び第 4-16 図に示す保全上重要な植物の生育地が存在するが、計画地には存在しない。また、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）では第 4-9 表に示す選定基準により、存続の危機にある希少な植物群落が掲載されている。なお、調査範囲には第 4-10 表及び第 4-16 図に示す 5 件が存在するが、計画地には存在しない。

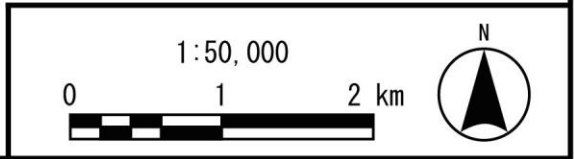
第4-15図(1) 現存植生図



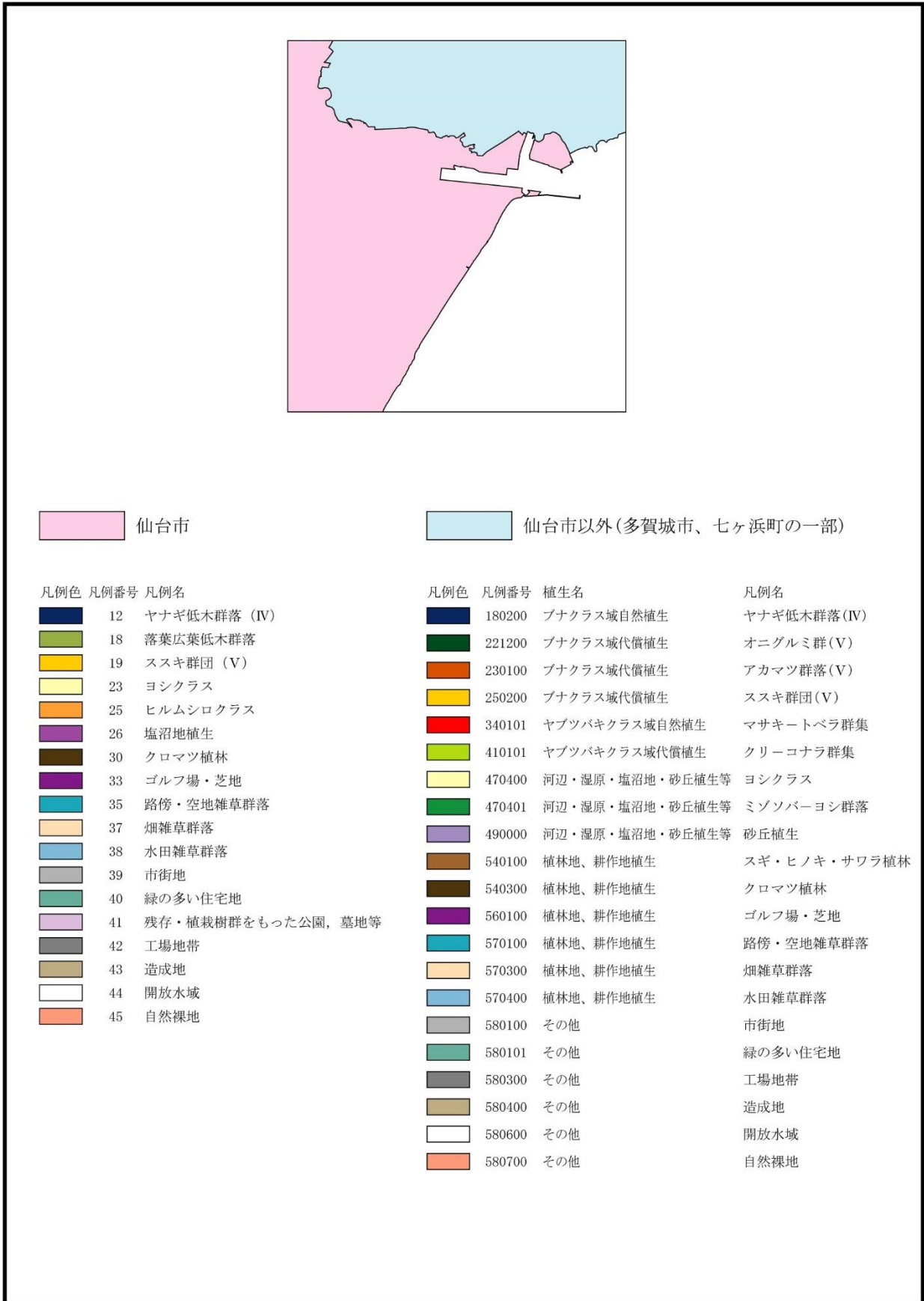
凡 例

-  計画地
-  凡例区分境界線

出典：「平成27年度仙台市現存植生図」（仙台市HP、閲覧：平成29年3月）
 「生物多様性センター 植生調査（植生自然度調査）」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）



第 4-15 図 (2) 現存植生図



第 4-7 表 保全上重要な動植物の生息地・生育地選定のための基準

No.	判 断 理 由
保全上重要な地域	1 保全上重要な動植物種が高密度で分布する地域（動物の繁殖場（動物の繁殖場、集団越冬 集団越冬地となっている地域など）
	2 多様な生物相が保存されている地域
	3 自然性の高い植生、その他学術上重要な植生が保存されている地域
	4 湿地、湧水、岸壁地、地滑り等の動植物の生息・生育地として特異な環境を有する地域
	5 自然とのふれあいの場としてふさわしい地域
	6 環境教育の場としてふさわしい地域
	7 郷土の特色が保存されている地域（里地里山・居久根等）
	8 緑の回廊としてあるいは動物の移動のネットワークとして重要な地域（山地から市街地への連続した緑地、市街地や田園地域に点在する緑地等）
	9 海辺や水辺、植生帯境界等のエコトーンとして重要な地域

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 4-8 表 植物の生育地として重要な地域

No.	地域名	備 考	判断理由
①	七北田川下流域の河畔植生	ヨシ群落自然植生度 10 のヨシクラスを主体とする河畔植生で、防災・減災対策と整合性のある保全・保護対策が必要。市民の憩いの場として極めて貴重。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	8,9
②	蒲生の塩生植物群落	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台湾海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟で、海の干満と七北田川の水流により多様な微環境が成立している。水辺にはオオシバナやハマツナ、ハマゼリ等を含む塩生の草本植生が分布する。干潮時には干上がる地やわずかに水を冠っている地にみられるオオシバナ、ハマツナ、ハマゼリ等を含む群落である。震災による津波で群落と立地は著しく減少したが、埋土種子などから再生が認められている。今後の環境変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4,5,6,7
③	大沼周辺の湿地植生	湖岸が非耕作地に、震災後に出現した湿地植生（植生自然度 10 のヨシクラス等）や水生植物が生育する開放水域がまともまっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
④	仙台湾沿岸の海岸林	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。藩政時代からのクロマツ林が存在したが、震災による地盤沈下と津波で一部を残し倒伏・流木した。海岸堤防背後では海岸林の再生が進められている。樹林跡地には砂浜植物が再生し、また小湿地群が分布し自然度の高い植生が再生しつつあるため今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	7,9
⑤	仙台湾沿岸の砂浜植物群落	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。渚からハマニンニク群落、コウボウムギ群落、ケカモノハンシ群落等が順に成立していたが、震災による津波と地盤沈下で植物群落は大きく攪乱された。しかし回復が著しい場所もあり、今後の変化に注目する必要がある。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1,3,4,5,6
⑥	南長沼の池沼植物群落	仙台湾平野に残された貴重な沼。近年浚渫され、湿生・水生植物の生育地としての価値が著しく減少しつつあるが、震災後においても貴重な植物が確認されており重要。	1,4

注：1. 表中の No. は、第 4-16 図の番号に対応する。

2. 判断理由は第 4-7 表に対応する。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

第 4-9 表 希少な植物群落野カテゴリー区分

区分	区分の内容
1	「要注意」 群落は、現在保護・管理状態が良く、当面破壊されるおそれが少ない。しかし、監視は必要である。
2	「破壊危惧」 群落は当面保護されているが、将来破壊されるおそれがある。
3	「壊滅危惧」 群落は対策を講じなければ徐々に悪化して壊滅する。
4	「壊滅状態」 群落は全体的に壊滅状態にあり、緊急に対策を講じなければ壊滅する。
D	「壊滅」

出典：「宮城県での絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）

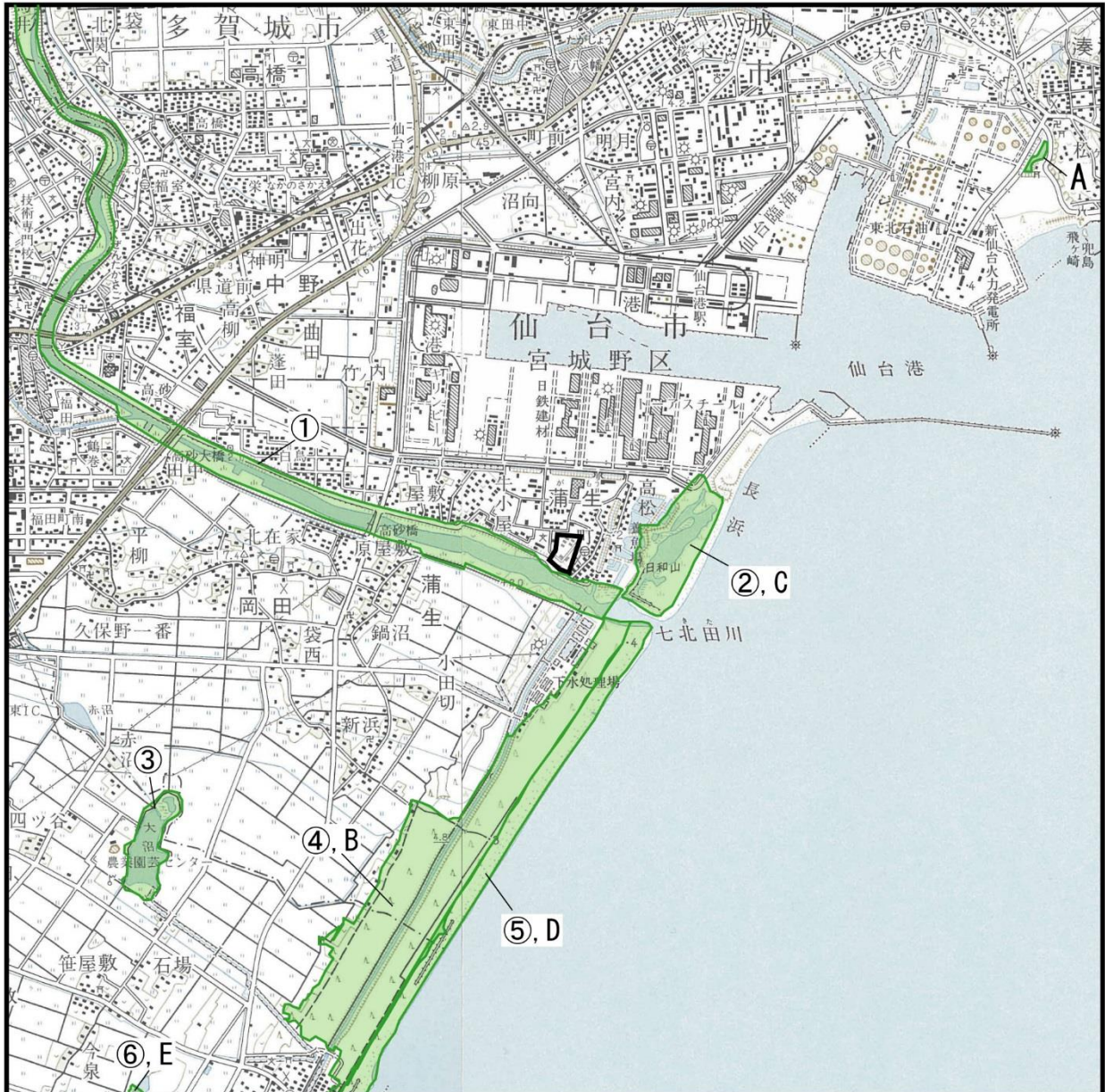
第 4-10 表 希少な植物群落

記号	植生タイプ	群落タイプ	希少群落名	県 RDB カテゴリー	面積 (ha)	所在地	備考
A	池沼植生	エゾウキヤガラ群落	深川沼のエゾウキヤガラ群落	2	7.5	七ヶ浜町	特定植物群落
B	海岸林	クロマツ植林	仙台湾沿岸のクロマツ植林	4	1,050	仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町	特定植物群落
C	塩湿地植生	—	蒲生の塩性地植物群落	4	20	仙台市	特定植物群落、仙台湾海浜県自然環境保全地域、日本の重要湿地 500
D	砂丘植生	—	仙台湾沿岸の砂丘植物群落	4	240	仙台市、名取市、岩沼市、亶理町、山元町	—
E	池沼植生	—	南長沼の池沼植物群落	3	2.5	仙台市	—



注：表中の記号は、第 4-16 図の番号に対応する。

出典：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）

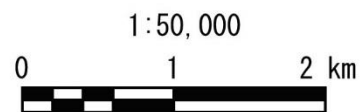
第 4-16 図 植物生育地として重要な地域



凡 例

-  計画地
-  植物生育地として重要な地域(①～⑥)
希少な植物群落(A～E)

出典:「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務報告書」(仙台市、平成 29 年)
「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(宮城県、平成 28 年)



(3) その他事業の立地上配慮を要する植物

仙台市の「杜の都の環境をつくる条例」に基づく「保存樹木」、「保存樹林」、「保存緑地」及び多賀城市の「多賀城市樹木の保存に関する要綱」に基づく「保存樹木」の調査範囲における指定状況は第 4-11 表及び第 4-17 図に示すとおりである。

調査範囲には「保存樹木」が存在するが、計画地及びその周辺には存在しない。また、「保存樹林」及び「保存緑地」は、計画地及びその周辺には存在しない。

第 4-11 表 保存樹木

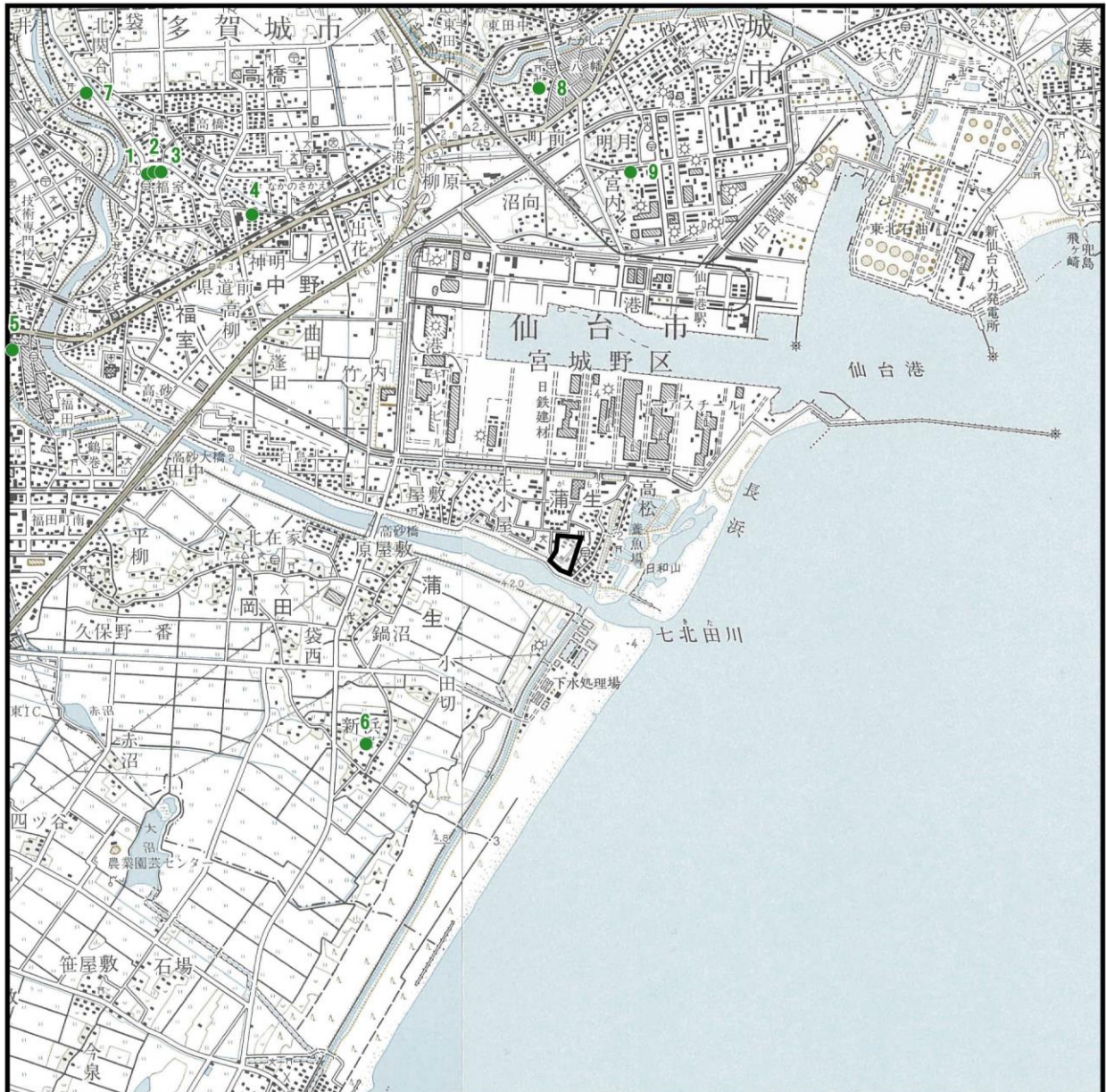
No.	市	名 称	樹 種	所有者	推定樹齢(年)	樹高(m)	幹周(m)
1	仙 台 市	西光寺の杉	スギ	西光寺	350	25.0	2.5
2		西光寺のぎんもくせい	ギンモクセイ	西光寺	350	5.8	株立
3		西光寺のあらかし	アラカシ	西光寺	350	6.5	2.1
4		栄のぎよりゅう	ギョリュウ	個人所有	130	4.0	1.9
5		福田町の黒松	クロマツ	個人所有	350	5.8	1.3
6		照徳寺のいちょう	イチョウ	照徳寺	350	20.0	5.1
7	多 賀 城 市	新田のひいらぎ	ヒイラギ	個人所有	220	8.20	1.34
8		末の松山の黒松	クロマツ	多賀城市	470	18.80	3.48
9		八幡神社の高野槇	コウヤマキ	八幡神社	420	24.65	4.53

注：表中の No. は第 4-17 図の番号に対応する。



出典：「杜の都の名木・古木」（仙台市、平成 29 年）

「保存樹木」（多賀城市HP、閲覧：平成 29 年 3 月）

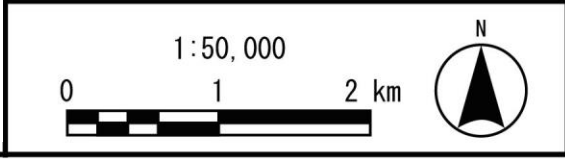
第 4-17 図 保存樹木



凡 例

-  計画地
-  保存樹木(1~9)

出典：「杜の都の名木・古木」（仙台市、平成 29 年）
 「保存樹木」（多賀城市HP、閲覧：平成 29 年 3 月）



4-4 動物

(1) 注目すべき種の状況

調査範囲内における注目すべき動物種の状況は、以下に示す文献から抽出して整理した。具体的には、これら文献に掲載されている種のうち、第 4-4 表に示す選定基準に該当するものを注目すべき種として整理した。文献①及び文献②については、仙台市全域を対象としていることから、地域区分が「市街地地域」とされている減少種（第 4-5 表参照）、または、種の分布地として調査範囲内の地域（蒲生、宮城野区港、岡田、荒井、荒浜等）が示されている学術上重要及び環境指標種等を抽出した。文献③、文献⑤及び文献⑧以降については、調査範囲内における生息情報が記載されている種を抽出した。文献④については、蒲生地区で確認された種を対象として注目すべき種を抽出し、文献⑥及び文献⑦については、蒲生海岸で確認された種を対象として注目すべき種を抽出した。

注目すべき動物種の種数は、第 4-12 表に示すとおり 253 種であった。注目すべき動物種を第 4-13 表～第 4-19 表に示す。

- ①「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ②「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）
- ④「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）
- ⑤「宮城県の野生哺乳動物」（宮城野野生動物研究会、平成 8 年）
- ⑥「モニタリング 1000 ガンカモ類調査」（環境省HP、閲覧：平成 29 年 3 月）
- ⑦「モニタリング 1000 シギ・チドリ類調査」（環境省HP、閲覧：平成 29 年 3 月）
- ⑧「宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査）」（宮城県、平成 28 年）
- ⑨「宮城県の鳥類分布 2002 年」（（財）日本野鳥の会宮城県支部、平成 14 年）
- ⑩「宮城県の両生類・は虫類」（宮城野野生動物研究会、平成 12 年）
- ⑪「宮城県の甲虫」（日本鞘翅学会、平成元年）
- ⑫「宮城県昆虫分布資料 1、3～7、11～16」（座間 彰、平成元年～平成 14 年）
- ⑬「宮城県蛾類目録」（宮城昆虫地理研究会、平成 21 年）

第 4-12 表 注目すべき動物種の種数

項目	目数	科数	種数	仙台市重要種区分							国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法
				学術上重要種	減少種					環境指標種			
					山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域				
哺乳類	4	8	15	9	15	15	15	15	15	13	3	6	0
鳥 類	18	40	108	58	80	80	80	80	80	43	55	40	17
爬虫類	2	8	11	2	8	8	8	8	8	6	2	3	2
両生類	2	6	13	2	13	13	13	13	13	10	4	6	0
昆虫類	6	35	56	26	51	51	51	51	51	20	21	37	0
魚 類	9	12	29	19	29	29	29	29	29	9	24	23	0
無脊椎動物 (昆虫類以外)	11	19	21	-	-	-	-	-	-	-	9	20	0
合計	52	128	253	116	196	196	196	196	196	101	118	135	19

注：1. 表中の「国 RL」及び「県 RDB」は次のとおりである。

国 RL：「環境省レッドリスト 2017」（環境省、平成 29 年）掲載種

県 RDB：「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）掲載種

2. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

3. 無脊椎動物（昆虫類以外）は、「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）には掲載されていないため、「仙台市重要種区分」の記載はない。

第 4-13 表 注目すべき動物種【哺乳類】

No.	目名	科名	種名	文献				仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地	
				①	②	③	④	学術上重要種	減少種									環境指標種
									山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域					
1	モグラ(食虫)	トガリネズミ	トガリネズミ	○	○			+	C	/	/	/	○		DD			
2			ジネズミ	○	○			+	C	B	C	・	○					
3		モグラ	カワネズミ	○	○			1,4	B	B	/	/	/	○		DD		
4			ヒメヒミズ	○	○			1	+	・	/	/	/	○				
5			ミズラモグラ	○	○			1,4	C	・	/	/	/		NT	NT		
6	コウモリ(翼手)	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ	○	○			1	C	C	C	・	・	○				
7		ヒナコウモリ	モモジロコウモリ	○	○			1,4	C	C	C	・	・	○				
8			ヤマコウモリ	○	○			1,4	C	C	C	C	C	○	VU	VU		
9			ヒナコウモリ	○	○			1,4	C	C	C	・	C	○		VU		
10	ネズミ(齧歯)	リス	ムササビ	○	○			1,4	・	C	C	・	・	○				
11		ネズミ	ハタネズミ	○	○				+	C	C	C	C	○				
12			ヒメネズミ	○	○				+	+	+	/	・	○				
13	ネコ(食肉)	イヌ	タヌキ			○	○		+	+	・	+	・	○				
14		イタチ	イタチ	○	○		○		C	C	C	C	C	○				
15			オコジョ	○	○			1,4	C	・	/	/	/		NT	NT		
	4 目	8 科	15 種	14 種	14 種	1 種	2 種	9 種	15 種	15 種	15 種	15 種	15 種	13 種	3 種	6 種	0 種	記載無し

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③ 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）
- ④ 「宮城県の野生哺乳動物」（宮城野野生動物研究会、平成 8 年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-14 表(1) 注目すべき動物種【鳥類】

No.	目名	科名	種名	文献								仙台市重要種区分					国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地					
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	学術上重要種	減少種												
													山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域					海浜地域	環境指標種			
1	キジ	キジ	ウズラ	○	○	○						1,4	A	A	A	A	A	VU	CR+EN		蒲生海岸				
2	カモ	カモ	ヒシクイ	○	○					○			・	・	・	C	C	VU	NT	天記	蒲生、蒲生海岸				
3			マガン	○	○					○	1,4		・	・	A	B	B	NT		天記	大沼、蒲生				
4			カリガネ							○									EN	NT					
5			コクガン	○	○	○		○		○	1,2,4	/	/	/	・		B		VU	VU	天記	蒲生、七北田川河口			
6			ツクシガモ							○									VU						
7			オシドリ	○	○					○	1,4	+	C	B	・	・			DD				大沼		
8			トモエガモ					○		○									VU						
9			アカハジロ							○									DD						
10			カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○		○	○			・	C	B	C	C	○					蒲生		
11	ミズナギドリ	アホウドリ	コアホウドリ					○									EN								
12	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ					○									CR			特天国内					
13	カツオドリ	ウ	ヒメウ					○									EN	VU							
14	ベリカン	サギ	サンカノゴイ	○	○	○			○	1	・	B	A	B	B		EN	NT			蒲生				
15			ヨシゴイ	○	○		○		○	1,4	・	C	B	C	C	○	NT	NT				七北田川、蒲生			
16			オオヨシゴイ	○	○				○	1,4	・	・	・	B	B			CR	CR+EN				大沼、南蒲生		
17			アマサギ	○	○				○	4	・	・	A	+	・	○							中野、岡田、蒲生、南蒲生		
18			チュウサギ	○	○				○	1,2,4	・	C	A	C	C			NT					蒲生、大沼、南蒲生、蒲生二本木、蒲生海岸		
19			コサギ	○	○		○		○		・	C	B	+	+	○							蒲生海岸、天神沢、蒲生二本木		
20			カラシラサギ			○			○									NT	DD						
21			トキ	ヘラサギ					○										DD						
22				クロツラヘラサギ					○										EN						
23	ツル	クイナ	クイナ	○	○	○			○	1,4	・	C	A	B	B							要	大沼、蒲生		
24			ヒメクイナ			○			○														要		
25			ヒクイナ	○	○				○	1,4	・	C	B	B	B			NT	CR+EN					蒲生海岸	
26			バン	○	○		○		○	1,4	・	C	B	C	C	○									蒲生
27			オオバン		○		○		○		・	・	・	B	B										蒲生
28	カッコウ	カッコウ	ホトトギス	○	○				○	1,4	+	+	C	C	C	○									
29			カッコウ	○	○				○	1,4	C	C	B	C	C	○									七北田川、蒲生

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成23年）
- ② 「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成29年）
- ③ 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）
- ④ 「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成28年）
- ⑤ 「モニタリング1000 ガンカモ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑥ 「モニタリング1000 シギ・チドリ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑦ 「宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査）」（宮城県環境生活部自然保護課、平成28年）
- ⑧ 「宮城県の鳥類分布 2002年」（(財)日本野鳥の会宮城県支部、平成14年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-14 表(2) 注目すべき動物種【鳥類】

No.	目名	科名	種名	文献								仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地																			
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	学術上重要種	減少種																											
													山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域					環境指標種																		
30	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○	○											1,4	+	C	B	・	・	○	NT	NT																
31	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ																					要																
32	チドリ	チドリ	ケリ																					DD	要															
33			イカルチドリ	○	○																					七北田川														
34			シロチドリ	○	○	○																				蒲生														
35			メダイチドリ																							国際														
36			オオメダイチドリ																							国際														
37		セイタカシギ	セイタカシギ																							VU														
38		シギ	オオジシギ	○	○																					蒲生、大沼、南蒲生														
39			シベリアオオハシシギ																							DD														
40			オオソリハシシギ				○																			VU														
41			ホウロクシギ	○	○	○																				国際	蒲生													
42			ツルシギ		○																						VU	蒲生												
43			アカアシシギ	○	○		○																				VU	蒲生、大沼												
44			カラフトアオアシシギ																								CR	国内												
45			タカブシギ																								VU													
46			オバシギ				○																					国際												
47			コオバシギ					○																				国際												
48			サルハマシギ					○																				国際												
49			ハマシギ		○		○																					蒲生広瀬川合流点付近												
50			ヘラシギ	○	○	○																						CR	VU	大沼、蒲生										
51		タマシギ	タマシギ																									VU												
52		ツバメチドリ	ツバメチドリ																									VU												
53		カモメ	ズグロカモメ			○																						VU	要											
54			コアジサシ	○	○																								VU	VU	国際	大沼、蒲生								
55		ウミスズメ	マダラウミスズメ																										DD											
56			ウミスズメ		○																									CR	蒲生干潟									
57	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○		○																							1,4	・	・	・	C	C	○	NT		蒲生、大沼、七北田川	
58		タカ	オジロワシ	○	○																									1,2,4	・	B	B	B	B		VU	VU	天記、国内・国際	蒲生、仙台港
59			オオワシ	○	○																									1,2,4	・	・	・	B	B		VU	VU	天記、国内	蒲生、仙台港
60			チュウビ	○	○																									1,4	・	C	B	C	C	○	EN	NT		蒲生
61			ツミ	○	○																									1,4	C	C	C	C	C		DD			
62			ハイタカ	○	○																									1,4	C	C	C	C	C		NT	NT		蒲生
63			オオタカ	○	○		○																							1,4	C	C	B	B	C	○	NT	NT	国内	蒲生、七北田川

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成23年）
- ② 「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成29年）
- ③ 「宮城県絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）
- ④ 「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査報告書」（環境省、平成28年）
- ⑤ 「モニタリング1000 ガンカモ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑥ 「モニタリング1000 シギ・チドリ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑦ 「宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査）」（宮城県環境生活部自然保護課、平成28年）
- ⑧ 「宮城県の鳥類分布2002年」（(財)日本野鳥の会宮城県支部、平成14年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第4-14表(3) 注目すべき動物種【鳥類】

No.	目名	科名	種名	文献								学術上重要種	仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		減少種									
													山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域	環境指標種				
64	タカ	タカ	サシバ	○	○					○	○	1,4	C	C	A	C	C		VU	VU		蒲生
65			ノスリ	○	○		○				○		+	C	C	C	・	○				蒲生
66	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク	○	○							1	C	C	C	B	B			要		蒲生
67			フクロウ	○	○							1	C	C	B	B	C	○				
68			アオバズク	○	○						○	1	・	C	B	B	B	○		VU		
69			トラフズク	○	○						○	1	・	・	・	B	B					蒲生
70			コミミズク	○	○						○	1	・	B	A	B	B	○		要		大沼、蒲生
71	ブッポウソウ	カワセミ	カワセミ	○	○		○				○	1,4	・	C	C	C	・	○				蒲生、七北田川、南蒲生
72			ヤマセミ	○	○							1,4	・	・	B	・	・	○		要		
73	キツツキ	キツツキ	アカゲラ	○	○						○		+	C	B	C	C					
74			アオゲラ	○	○								+	C	B	C	C	○				
75	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○	○		○				○	1,4	・	C	B	C	B					
76			チコハヤブサ	○	○						○		・	・	B	B	・			要		蒲生
77			ハヤブサ	○	○						○	1,4	C	B	B	B	B		VU	NT	国内	蒲生、大沼、仙台港、荒井、南蒲生
78	スズメ	サンショウクイ	サンショウクイ	○	○						○		C	C	B	C	C		VU	VU		
79		カササギヒタキ	サンコウチョウ	○	○							1	・	C	B	・	・	○				蒲生
80		モズ	チゴモズ	○	○							1,4	・	B	B	B	・		CR	CR+EN		
81			モズ	○	○		○				○	1	+	C	B	C	C	○				
82			アカモズ	○	○						○	1,4	・	B	B	B	B		EN	CR+EN		蒲生、七北田川
83		ヒバリ	ヒバリ	○	○		○				○		・	C	B	C	C	○				
84		ツバメ	ツバメ	○	○		○				○		・	C	C	C	・	○				
85		ウグイス	ウグイス	○	○		○				○	1,4	+	+	C	C	C	○				七北田川、蒲生
86		ムシクイ	オオムシクイ								○								DD			
87			センダイムシクイ	○	○						○		+	C	B	・	・	○				
88		センニュウ	オオセッカ		○		○				○	1,3,4	・	・	・	・	・		EN	VU	国内	蒲生海岸
89		ヨシキリ	オオヨシキリ	○	○		○				○	1,4	・	C	B	C	C	○				蒲生
90			コヨシキリ	○	○		○				○	1,4	・	C	A	C	C	○				蒲生
91		セッカ	セッカ	○	○		○				○	1,4	・	C	B	C	C	○				七北田川、大沼、蒲生
92		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○								+	・	B	・	・	○				
93		カワガラス	カワガラス	○	○								+	C	B	・	・	○				

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会、平成24年)に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成23年)
- ② 「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」(仙台市、平成29年)
- ③ 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(宮城県、平成28年)
- ④ 「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」(環境省、平成28年)
- ⑤ 「モニタリング1000 ガンカモ類調査」(環境省HP、閲覧：平成29年3月)
- ⑥ 「モニタリング1000 シギ・チドリ類調査」(環境省HP、閲覧：平成29年3月)
- ⑦ 「宮城県猛禽類生息状況調査報告書(環境影響生物基礎調査)」(宮城県環境生活部自然保護課、平成28年)
- ⑧ 「宮城県の鳥類分布 2002年」(財)日本野鳥の会宮城県支部、平成14年)

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-14 表(4) 注目すべき動物種【鳥類】

No.	目名	科名	種名	文献								仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	学術上重要種	減少種										
													山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域					環境指標種	
94	スズメ	ヒタキ	トラツグミ	○	○						○		+	C	B	C	C	○					
95			クロツグミ	○	○						○	1,4	+	C	B	C	C	○					
96			シロハラ	○	○						○		+	C	B	・	・	○					
97			コルリ	○	○						○	1,4	+	C	B	C	C	○					
98			ルリビタキ	○	○						○		+	C	C	C	C						
99			コサメビタキ	○	○						○		・	・	B	・	・	○				蒲生	
100			キビタキ	○	○						○		+	C	B	・	・	○				蒲生	
101			オオルリ	○	○						○	1,4	+	C	C	C	C	○				七北田ダム、蒲生	
102			セキレイ	キセキレイ	○	○					○	1,4	+	C	C	C	・	○					
103				セグロセキレイ	○	○		○			○	4	C	C	C	C	・	○					
104			ホオジロ	ホオジロ	○	○		○			○		+	+	B	C	C	○				蒲生	
105				ホオアカ	○	○					○			B	C	A	C	B	○				蒲生
106				ノジコ	○	○						○	1,4	C	C	B	・	・		NT	要		
107	アオジ	○		○		○				○		C	C	C	C	C							
108		コジュリン		○					○	1,4	・	・	・	B	B		VU	VU		蒲生、南蒲生、七北田川			
18 目	40 科	108 種	74 種	80 種	10 種	25 種	2 種	13 種	7 種	95 種	58 種	80 種	80 種	80 種	80 種	80 種	43 種	55 種	40 種	17 種			

注：1. 種名は「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会、平成24年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成22年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成23年）
- ② 「平成28年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成29年）
- ③ 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成28年）
- ④ 「平成27年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成28年）
- ⑤ 「モニタリング1000 ガンカモ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑥ 「モニタリング1000 シギ・チドリ類調査」（環境省HP、閲覧：平成29年3月）
- ⑦ 「宮城県猛禽類生息状況調査報告書（環境影響生物基礎調査）」（宮城県環境生活部自然保護課、平成28年）
- ⑧ 「宮城県の鳥類分布 2002年」（(財)日本野鳥の会宮城県支部、平成14年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第4-5表を参照。

5. 文献①の掲載種は、当時の国RL及び県RDBに基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国RL及び県RDBが改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-15 表 注目すべき動物種【爬虫類】

No.	目名	科名	種名	文献			学術上重要種	仙台市重要種区分					国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地
				①	②	③		注目種								
								山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域				
1	カメ	ウミガメ	アカウミガメ			○							EN	DD	国際	
2		オサガメ	オサガメ			○									国際	
3		イシガメ	ニホンイシガメ	○									NT	DD		
4	有鱗	トカゲ	ヒガシニホントカゲ	○	○		1	・	C	A	・	・	○			
5		カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○		+	+	C	C	・	○			
6		タカチホヘビ	タカチホヘビ	○	○		1	・	・	A	・	・			DD	
7		ナミヘビ	アオダイショウ	○	○	○		+	+	B	C	C	○			蒲生、荒井
8			ジムグリ	○	○	○		+	+	B	C	C	○			荒浜
9			ヒパカリ	○	○			C	C	C	C	B	○			
10			ヤマカガシ		○	○		・	+	A	C	・	○			
11			クサリヘビ	ニホンマムシ		○			C	C	A	C	・			
	2 目	8 科	11 種	7 種	8 種	6 種	2 種	8 種	8 種	8 種	8 種	8 種	6 種	2 種	3 種	2 種

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③ 「宮城県の両生類・は虫類」（宮城野野生動物研究会、平成 12 年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①には当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-16 表 注目すべき動物種【両生類】

No.	目名	科名	種名	文献				学術上重要種	仙台市重要種区分						国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地		
				①	②	③	④		山地地域	減少種				環境指標種						
										西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域							
1	有尾	サンショウウオ	トウホクサンショウウオ	○	○			4	+	C	B	/	/	○	NT	NT				
2			クロサンショウウオ	○	○				+	C	A	/	/	○	NT	LP				
3			キタオウシュウサンショウウオ		○				2	+	C	/	/	/	○		NT			
4		イモリ	アカハライモリ	○	○				+	C	A	C	/	○	NT	LP				
5	無尾	ヒキガエル	アズマヒキガエル	○	○	○			+	C	B	C	/							
6			アマガエル	ニホンアマガエル		○	○			+	+	+	+	+	○					
7			アカガエル	タゴガエル	○	○				+	C	A	/	/						
8				ニホンアカガエル	○	○	○			+	+	A	C	/					荒浜	
9				トウキョウダルマガエル	○	○	○				C	C	A	C	/	○	NT	NT		荒井
10				ツチガエル	○	○				+	+	C	A	・	/	○		NT		
11			アオガエル	シュレーゲルアオガエル		○				+	+	B	C	/	○					
12				モリアオガエル		○				+	+	B	/	/	/	○				
13				カジカガエル	○	○				+	+	B	/	/	/	○				
2 目			6 科	13 種	9 種	13 種	0 種	4 種	2 種	13 種	13 種	13 種	13 種	13 種	10 種	4 種	6 種	0 種		

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③ 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）
- ④ 「宮城県の両生類・は虫類」（宮城野野生動物研究会、平成 12 年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①には当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-17 表 (1) 注目すべき動物種【昆虫類】

No.	目名	科名	種名	文献							仙台市重要種区分					国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学術上重要種	減少種								
												山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域					海浜地域
1	トンボ	イトトンボ	ヒスマイトトンボ		○						1,2	EX	EX	EX	EX	EX	EN	CR+EN		
2	(蜻蛉)	カワトンボ	アオハダトンボ	○												NT				
3		ムカシトンボ	ムカシトンボ		○						1,4	+	+	/	/	/	○			
4		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ		○						/	/	/	・	C		NT	NT		
5			マダラヤンマ				○					・	・	・	C	C		NT	NT	
6			カトリヤンマ		○	○						1	・	B	・	B	・			CR+EN
7		サナエトンボ	ウチワヤンマ	○	○						1	・	C	B	C	・				
8			ナゴヤサナエ	○	○							1,2	・	・	C	・	・		VU	CR+EN
9		トンボ	ハッチョウトンボ	○	○						1	・	B	A	・	・	○		VU	
10			キトンボ	○	○							1	・	A	A	・	・		VU	
11			ナツアカネ				○					・	C	・	C	・	○			
12			アキアカネ				○					・	C	・	C	・	○			
13			ノシメトンボ				○					・	C	・	C	・	○			
14			マイコアカネ				○					・	C	・	C	・	○			
15		ヒメアカネ	○	○							1	・	B	A	・	・			CR+EN	
16	バッタ	マツムシ	スズムシ	○	○						1	・	B	A	B	・				
17	(直翅)	バッタ	ヤマトマダラバッタ	○		○	○				2	・	・	・	・	C	○		VU	荒浜
18			カワラバッタ	○	○						1	・	・	B	B	・	○		NT	
19	カメムシ	ゼミ	エゾゼミ	○	○							・	+	B	・	・	○			
20	(半翅)	コオイムシ	コオイムシ	○	○						1	・	B	A	A	・		NT	NT	
21			タガメ	○	○						1	・	B	A	A	・	○	VU	CR+EN	
22	チョウ	マダラガ	ヤホシホソマダラ				○											NT		
23	(鱗翅)	シジミチョウ	クロシジミ	○	○						1	・	A	A	・	・		EN	CR+EN	
24		タテハチョウ	オオウラギンヒョウモン	○	○						EX	EX	EX	EX	EX			CR	EX	
25			ジャノメチョウ	○	○							・	C	C	C	・	○			
26			オオムラサキ	○	○						1	・	C	B	B	・	○	NT		
27		アゲハチョウ	アオスジアゲハ	○	○			○			4	・	・	+	+	・	○			
28			ヒメギフチョウ本州亜種	○	○	○					1	C	B	B	・	・	○	NT	NT	
29		シロチョウ	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種	○	○						EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN	
30		ドクガ	フタホシドクガ	○	○						1	・	・	C	・	・			NT	
31		ヤガ	コシロシタバ	○	○						1	A	・	A	・	・		NT	VU	
32	コウチュウ	オサムシ	マークオサムシ				○											VU	CR+EN	
33	(鞘翅)		ヒョウタンゴミムシ	○	○	○						・	・	・	・	C	○		NT	宮城野区蒲生
34		ハンミョウ	カワラハンミョウ	○	○		○				1	・	・	・	・	C	○	EN	CR+EN	宮城野区蒲生
35			ハンミョウ	○	○							・	B	B	・	・				
36		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ	○														NT		
37			ゲンゴロウ	○	○						1	・	・	B	B	・		VU	NT	
38		クワガタムシ	ミヤマクワガタ	○	○							・	C	B	・	・	○			
39			ノコギリクワガタ	○	○							・	C	C	C	・	○			
40		コガネムシ	ヤマトケシマゴソガネ		○	○						・	・	・	・	・			NT	宮城野区荒浜
41		タマムシ	タマムシ	○	○						1,2	・	B	A	A	・			NT	
42		コメツキムシ	スナサビキコリ		○	○					2	・	・	・	・	・			NT	宮城野区蒲生
43		ホタル	ゲンジボタル	○	○						1	・	C	B	C	・	○		NT	
44		ゴミムシダマシ	ハマヒョウタンゴミムシダマシ	○	○		○					・	・	・	・	C	○			宮城野区蒲生

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

- 表中の文献は以下のとおりである。
 - 「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
 - 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
 - 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）
 - 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）
 - 「宮城県の甲虫」（日本鞘翅学会、平成元年）
 - 「宮城県昆虫分布資料 1、3～7、11～16」（座間 彰、平成元年～平成 14 年）
 - 「宮城県蛾類目録」（宮城昆虫地理研究会、平成 21 年）
- 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。
- 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。
- 文献①には当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-18 表 注目すべき動物種【魚類】

No.	目名	科名	種名	文献				仙台市重要種区分							国 RL	県 RDB	文化財保護法・種の保存法	分布地		
				①	②	③	④	学術上重要種	減少種					環境指標種						
									山地地域	西部丘陵地・田園地域	市街地地域	東部田園地域	海浜地域							
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類	○	○			1	C	B	C	C	/		VU	NT		七北田川		
2			カワヤツメ		○			1	/	/	/	/	・		VU	DD				
3	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	○	○			1	・	B	B	C	C	○	EN	NT		七北田川、 蒲生干潟		
4	コイ	コイ	キンブナ		○				+	+	C	C	・		VU	NT				
5			テツギョ	○	○			1	A	/	/	/	/			CR+EN				
6			タナゴ	○	○				EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN			
7			アカヒレタビラ	○	○				EX	EX	EX	EX	EX			EN	CR+EN			
8			ゼニタナゴ	○	○				EW	EW	EW	EW	EW			CR	CR+EN			
9			エゾウグイ		○			1,4	B	/	/	/	/			LP	VU			
10			ウグイ	○	○				+	+	+	+	+	○					七北田川	
11			シナイモツゴ		○			1,4	A	/	/	/	/			CR	CR+EN			
12			ドジョウ	ホトケドジョウ	○	○			1	+	+	C	C	/	○	EN	NT			
13			ナマズ	ギギ	ギバチ	○	○			1	・	+	+	C	/		VU	NT		
14			サケ	アユ	アユ	○	○				/	+	+	+	C	○				七北田川
15	サケ	ニッコウイワナ			○				+	B	/	/	/		DD					
16	サケ	サクラマス			○			1	+	・	C	C	C	○		NT				
17		サケ	サクラマス(ヤマメ)		○				+	+	+	+	/	○	NT					
18	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	○	○			1	・	A	A	C	C	○	VU	NT		貞山掘		
19		サヨリ	クルマサヨリ		○			1	/	/	/	/	・		NT	DD				
20	トゲウオ	トゲウオ	ニホンイトヨ	○	○	○		1,4	/	/	/	A	A		LP	DD		蒲生の干潟		
21	カサゴ	カジカ	カジカ	○	○				+	+	B	/	/	○	NT			七北田川		
22			ウツセミカジカ (回遊型)	○	○			1	/	/	/	・	・		EN	VU				
23	スズキ	ハゼ	シロウオ		○				/	/	/	/	C		VU	VU				
24			ヒモハゼ	○	○	○		1	/	/	/	/	C	○	NT	NT		蒲生干潟		
25			スミウキゴリ		○			1	/	/	+	+	+		LP					
26			ヘビハゼ		○			1	/	/	/	/	・		DD	DD				
27			エドハゼ	○	○	○		1,2	/	/	/	/	/	C		VU	VU		蒲生干潟	
28			マサゴハゼ	○	○	○		1,2	/	/	/	/	/	B		VU	CR+EN		蒲生干潟	
29			アベハゼ	○	○	○		2	/	/	/	/	C	C			NT		七北田川の 河口付近	
	9 目	12 科	29 種	18 種	29 種	5 種	0 種	19 種	29 種	29 種	29 種	29 種	29 種	9 種	24 種	23 種	0 種			

注：1. 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に準拠した。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

- ① 「平成 22 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 23 年）
- ② 「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査業務委託報告書」（仙台市、平成 29 年）
- ③ 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）
- ④ 「平成 27 年度東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）

3. 表中の分布地は、文献①及び文献②に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

5. 文献①には当時の国 RL 及び県 RDB に基づくランク等が示されているが、文献①発行後に国 RL 及び県 RDB が改正されているため、文献①の記載と本表の記載は必ずしも一致しない。

第 4-19 表 注目すべき動物種【無脊椎動物（昆虫類以外）】

No.	門名	綱名	目名	科名	種名	文献		国 RL	県 RDB	文化財保護法 種の保存法	分布地	
						①	②					
1	軟体動物	腹足	盤足	ウミニナ	ウミニナ	○		NT	NT		蒲生干潟	
2				キバウミニナ	フトヘナタリガイ	○		NT	VU		蒲生干潟	
3				ワカウラツボ	サザナミツボ	○		NT	CR+EN		蒲生干潟	
4				カワザンショウガイ	ヨシダカワザンショウガイ	○		NT	VU		蒲生干潟	
5					ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ	○		NT	NT		蒲生干潟	
6		二枚貝	カキ	イタボガキ	マガキ		○	LP				
7			マルスダレガイ	バカガイ	シオフキガイ	○			DD		蒲生干潟	
8				ニッコウガイ	ユウシオガイ	○		NT	NT		蒲生干潟	
9				マテガイ	マテガイ	○			NT		蒲生干潟	
10				マルスダレガイ	ハマグリ	○		VU	VU		蒲生干潟	
11			オオノガイ	オオノガイ	オオノガイ	○		NT	NT		蒲生干潟	
12	環形動物	ゴカイ	サンバゴカイ	ゴカイ	イトメ	○			NT		蒲生干潟	
13			イトゴカイ	イトゴカイ	シダレイトゴカイ	○			NT		蒲生干潟	
14	ゆむし動物	ユムシ	ユムシ	ユムシ	ユムシ	○			VU		蒲生干潟	
15	節足動物	軟甲	ヨコエビ	カマカヨコエビ	モリノカマカ	○				DD		蒲生干潟
16			ワラジムシ	ハマダンゴムシ	ハマダンゴムシ	○				DD		蒲生干潟
17			エビ	ムツハアリアケガニ	アリアケモドキ	○	○			NT		蒲生干潟
18				ベンケイガニ	ハマガニ	○				CR+EN		蒲生干潟
19				アカテガニ	○					NT		蒲生干潟
20				モクズガニ	トリウミアカイソモドキ	○				VU		蒲生干潟
21	棘皮動物	ナマコ	無足	イカリナマコ	ヒモイカリナマコ	○				DD		仙台湾沿岸域
		5 門	6 綱	11 目	19 科	21 種	20 種	2 種	9 種	20 種	0 種	

注：1. 種名は原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成 28 年度生物リスト」（国土交通省、平成 28 年）に従ったが、一部他の文献を参考にした。

2. 表中の文献は以下のとおりである。

① 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）

② 「平成 27 年度 東北地方太平洋沿岸地域植生・海域等調査調査報告書」（環境省、平成 28 年）

3. 表中の分布地は、文献①に記載されている分布地を示す。

4. 減少種の地域区分については、第 4-5 表を参照。

(2) 注目すべき動物の生息地の状況

「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）では、前出の第 4-4 表に示す選定基準により、動物生息地として重要な地域を選定している。調査範囲においては、第 4-20 表及び第 4-18 図に示す地域が存在するが、計画地は該当しない。

また、「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」（宮城県、平成 28 年）によると、蒲生干潟が「宮城県における重要な干潟」として掲載されている。

第 4-20 表 動物の生息地として重要な地域

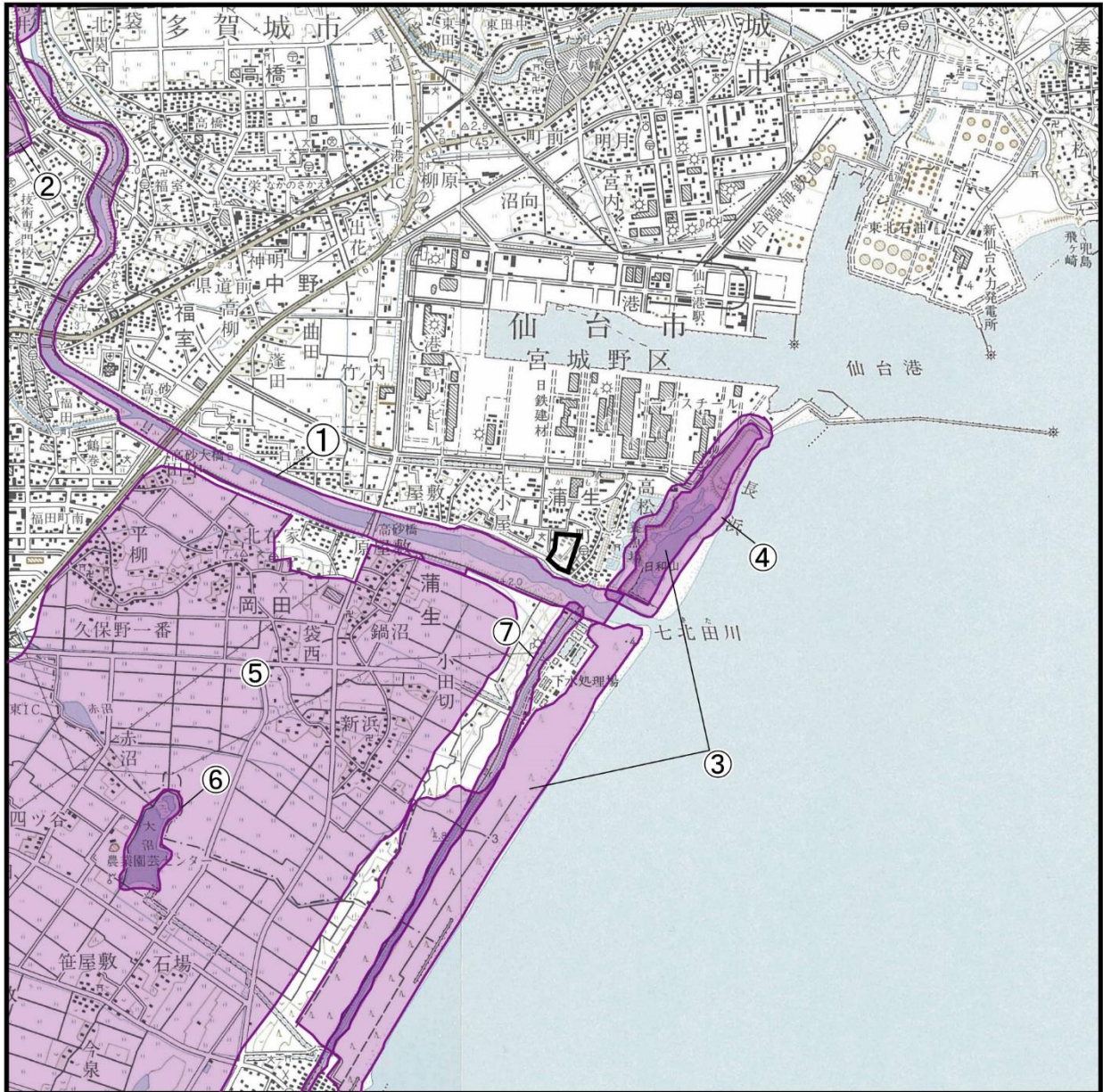
No.	件名	対象動物	備考	判断理由
①	七北田川（中流域～河口）	哺乳類、 鳥類	野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。川に接する地域の環境変化が著しく、動物の生息環境・移動経路としての重要性がとて大きくなってきている。河川周辺のヨシ原はオオセッカ等希少な鳥類が生息する重要な自然になっている。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	2,8
②	福田町の田園	鳥類	市街地に残されたまとまった広がり確保された田園生態系として重要。環境学習のフィールドとして重要。かつてはマガン、その他水鳥の渡来地としての利用もあった。	5,7
③	仙台湾海浜	哺乳類、 鳥類、 昆虫類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域。野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として極めて重要になってきた。環境学習のフィールドとしても重要。海浜性昆虫が震災後に砂浜の拡大とともに増加したが、震災復興工事による砂浜消失等生息環境の悪化が懸念される。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1,4,5,6,8
④	蒲生干潟	鳥類	仙台湾海浜県立自然環境保全地域、仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区。自然度の高い砂洲と潟湖を主体とした河口干潟。野生動植物のハビタット、環境学習のフィールド、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。シギ・チドリ類の渡りの中継地、コクガン渡来地。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1,4,5,6,8
⑤	低地の水田地帯	鳥類	野生動植物のハビタット、生態系回廊（生態系コリドー）として重要。セッカの繁殖、ホオアカの繁殖、四郎丸地区はメダカの生息地。居久根は低地における鳥類の生息地及び移動のための中継地として重要。	1,7,8
⑥	荒井の大沼	鳥類	野生動植物のハビタットとして重要。マガン、その他水鳥の渡来地。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	4
⑦	貞山運河	潮間帯 動物	野生動植物のハビタットとして重要。多様な潮間帯動物の生息。環境省の東北地方太平洋沿岸地域重要自然マップの重点エリアに含まれる。	1,2

注：1. 表中の No.は第 4-18 図の番号に対応する。

2. 判断理由は第 4-7 表に対応する。

出典：「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」（仙台市、平成 29 年）

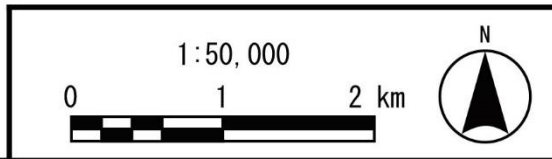
第 4-18 図 動物生息地として重要な地域



凡 例

-  計画地
-  動物生息地として重要な地域(①～⑦)

出典:「平成 28 年度仙台市自然環境に関する基礎調査報告書」(仙台市、平成 29 年)
 「宮城県の絶滅のおそれのある野生動植物」(宮城県、平成 28 年)



(3) **その他事業の立地上配慮を要する動物**

事業の立地上配慮を有する動物は、(1) 注目すべき種の状況、(2) 注目すべき動物の生息地の状況に記載したとおりであり、その他配慮を要する動物はない。